JOC ACTIVITY

JOCの活動

2021.April-2023.March

発行日　2023年12月

発行　公益財団法人 日本オリンピック委員会

編集デザイン　図書印刷株式会社

写真提供　アフロスポーツ、フォート・キシモト、ロイター／アフロ、AP／アフロ、
杉本哲大／アフロ、望月秀太郎／アフロ、環境省

本書についてのお問合せ

〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号

Japan Sport Olympic Square

公益財団法人日本オリンピック委員会

TEL：03-6910-5950（代表）　FAX：03-6910-5960（代表）

公益財団法人日本オリンピック委員会

RISING TOGETHER®

「JOC Vision 2064」の策定について

公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、2021年8月に「JOC Vision 2064」を策定しました。「JOC Vision 2064」は、JOCが長期的に追い求める“ありたい姿”を表したもので、永続性を示す意味から、1964年の第18回オリンピック競技大会（東京）から100年となる2064年をビジョンの名称に織り込み、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会（東京2020大会）をみた子どもたちが、未来の社会を動かす中心にいてほしい」、そんな思いを込めて、「JOC Vision 2064」としました。

JOC Vision 2064

スポーツの価値を守り、創り、伝える

■策定背景

私たちを取り巻く社会や環境は、大きく変化しています。デジタル技術の普及に加え、新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけにオンラインでの活動も定着しました。スポーツの世界でも、リモート観戦が定着し、SNSを通じてアスリートが多くの方々と直接つながれるようになりました。

一方で、東京2020大会では、各国・地域のアスリートが一堂に会し、全力で競技に臨む姿や、互いにリスペクトし友情を深める姿から、変わらないスポーツの魅力、素晴らしさを多くの方が実感したことと思います。

今後も世界は大きく変化していくでしょう。しかし、そんな将来の社会においても、今回の東京2020大会で多くのアスリートが示してくれた勇気や希望、切磋琢磨する仲間との交流や友情、スポーツを肌で感じることで得られる感動、目標に向かって努力しあきらめない気持ち、そのようなスポーツだからこそ持つ意味を大切にしながら、時代にあった新しいスポーツの価値を生み出し、広めていくことが、JOCの役割であると私たちは考えました。

■活動指針

「JOC Vision 2064」に基づき、以下の活動指針を掲げ、諸活動を進めてまいります。

オリンピズムが浸透している社会の実現

オリンピズムを誰もが当たり前のように理解し、スポーツを通して豊かに生きる喜びが浸透している社会をつくる。

憧れられるアスリートの育成

高い競技力と人間力を活かし、充実した人生を歩む、憧れの存在となるアスリートを育てる。

スポーツで社会課題の解決に貢献

さまざまなスポーツ団体と連携し、スポーツの力を結集し国際社会が抱えるあらゆる課題の解決に貢献する。

勝ち負けだけではない

スポーツの価値を守り、創り、伝えていく。

これこそがJOCの使命であり、責務であると考えています。

2022年1月　山下 泰裕 JOC会長

「JOC Vision 2064」と中期計画

「JOC Vision 2064」、ならびに「JOC GOAL&ACTION FOR TOKYO 2020」（東京2020大会を通じてJOCが果たすべき3つの役割と目標達成に向けた戦略）のレビューを踏まえて作成したものが、第1次JOC中期計画（2022-2024）です。JOCはこの中期計画のもと、2022年度より各種事業や組織基盤強化に取り組んでおります。

2017 → 2020 → 2021 → 2022.1月

JOC将来構想

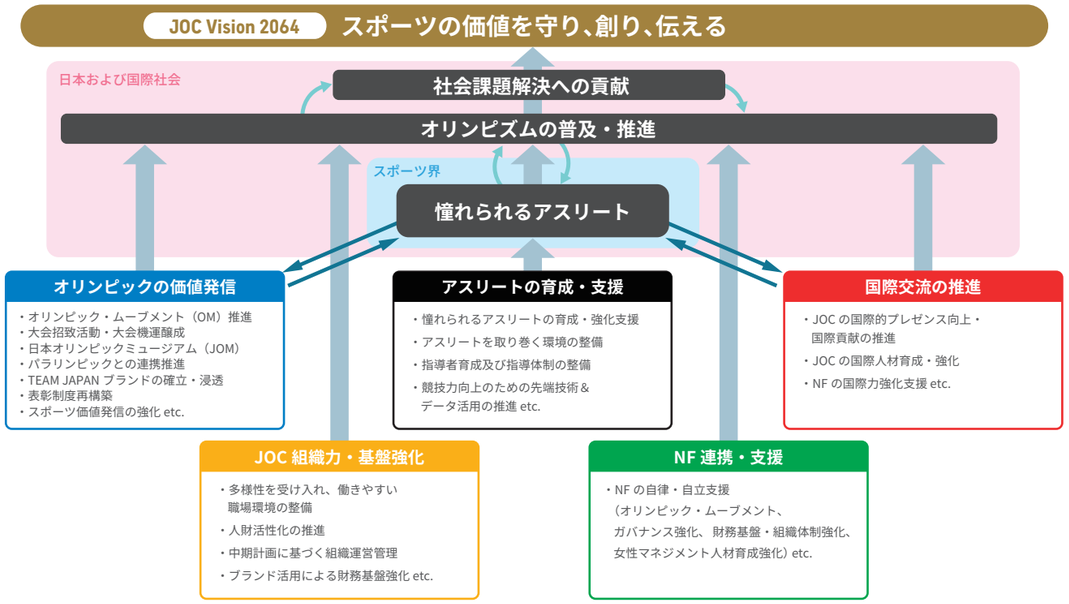
JOC GOAL&ACTION FOR TOKYO 2020

JOC Vision 2064（2021. 8月）

第1次JOC中期計画（2022. 4月～2025. 3月）

●JOC中期計画策定サイクル

●第1次JOC中期計画（2022-2024）　全体像



●JOC中期計画詳細ページ

URL https://www.joc.or.jp/about/About

BRANDING　TEAM JAPANブランド

JOCは2021年8月に「スポーツの価値を守り、創り、伝える」とする「JOC Vision 2064」を公表しました。本ビジョンは、JOCとしてスポーツの本質的な価値を広く発信し、より良い社会づくりに貢献していくという、JOCが長期的に追い求める“ありたい姿”を示すものです。
この「JOC Vision 2064」に近づくためには、JOCだけでなく、これまで以上に競技団体をはじめとする多くのステークホルダーとともに、スポーツの本質的な価値を広く発信し、より良い社会づくりに貢献していく必要があります。これらの活動を加速させるため、「TEAM JAPANブランド」を2021年10月に発表しました。

TEAM JAPAN

TEAM JAPANとは

TEAM JAPANは、オリンピック日本代表選手やチームだけではなく、世界で日本の代表として戦う各競技の日本代表選手、世代別の日本代表選手、等を指します。
アスリートたちが競技の枠を超えて、互いに手を携えることにより、スポーツに関わるすべてのステークホルダーの中心的存在となります。

TEAM JAPANの役割

TEAM JAPANのアスリートたちによる最高のパフォーマンスがもたらす勇気、希望、感動を多くの人々と共有し、競技団体、パートナー企業、ファン、自治体等、様々なステークホルダーをつなぎます。
そして、スポーツの本質的な価値を広く発信し続け、より良い社会づくりに貢献します。

TEAM JAPANが大切にする3つの想い

この3つの想いはTEAM JAPANが大切にする基本的な考え方です。
私たちの日々の行動や発信がこの価値に基づくことにより、すべてのステークホルダーに共感してもらうことが重要です。

PROUD
品格のある堂々とした
日本代表としての誇り高さ

SPIRIT
勇気や希望を抱かせる
情熱や憧れ

CONNECTED
ともに目標に向かい進む
一体感と共有感

スポーツを通じて、すべての想いをつなぐ。
その輪を広げ、人々が踏み出す一歩を後押しする。
それが、TEAM JAPANが目指すことです。

チームエンブレム

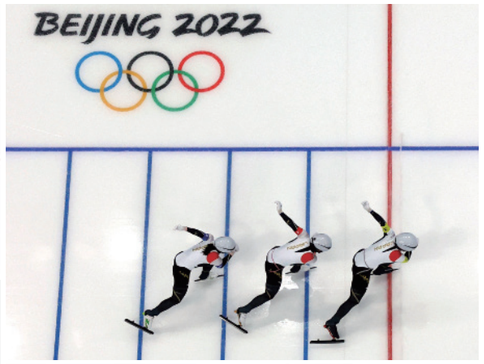
日の丸、TEAM JAPANロゴ、オリンピックシンボルをTEAM JAPANの頭文字であるTとJをかたどって構成された盾の形状で囲み、日本代表としての堅牢さや誇りを象徴的に表現しています。
日の丸にも使われているレッドは、アスリートやサポーターらの“情熱”を、ゴールドには、TEAM JAPANが人々を輝かせ、未来を照らす“光”となっていきたいと願う想いが込められています。TEAM JAPANを構成するアスリートおよびそれらを目指し、または応援する人々一人ひとりの心がひとつのエンブレムのもとに集結し、TEAM JAPANを旗印に結びつきやつながりが生まれることを象徴する、相互理解と一体感、求心力を表現しています。

タグライン

タグラインとは、TEAM JAPANが目指すべき姿を端的に表したものであり、ステークホルダーと共有したい思いを込めたものです。
TEAM JAPANのタグラインである“RISING TOGETHER”は、アスリートとアスリートを支えるすべての人々がひとつとなり、さらなる高みに向けて朝日のように上昇していく姿を描いています。

RISING TOGETHER®

TEAM JAPANシンボルアスリート



大会派遣

第24回オリンピック冬季競技大会（2022/北京）

第24回オリンピック冬季競技大会は、2022年2月4日から20日までの17日間、中国の北京と張家口を中心に開催されました。本大会には、91のNOCから選手2,834名の参加がありました。TEAM JAPANは、選手124名、監督・コーチ等138名、総勢262名で編成し、7競技68種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数18個と入賞総数43はともに冬季大会で歴代最多となる成績を収めました。

◆ 大会期間：2022年2月4日~20日
◆ 開催場所：北京・張家口/中国

【団長】伊東 秀仁
【主将】髙木 美帆（スケート/スピードスケート）
【旗手】渡部 暁斗（スキー/ノルディック複合）、郷 亜里砂（スケート/スピードスケート）

◆ 編成数：合計**262**名
男子選手：49名、女子選手75名、監督・コーチ等138名

◆ 参加NOC数：**91** NOC
※ロシアオリンピック委員会（ROC）含む

◆ 実施競技/種目数：**7**競技 / **109**種目（前回7競技/102種目）

◆ 日本の参加競技/種目数：**7**競技 / **68**種目

金メダル	銀メダル	銅メダル
3	6	9

合計 **18**

4TH	5TH	6TH	7TH	8TH
6	5	3	3	8

合計 **25**

＊冬季大会でメダル総数過去最多、入賞総数過去最多（平昌大会と同数）
＊前回大会（平昌2018）は、メダル総数13（金：4、銀：5、銅：4）、4位～8位：30の入賞総数43

◆ 日本代表選手団編成方針

日本代表選手は、当該競技団体から推薦され活躍が大いに期待できる者の中から選考し、代表選手としての自覚と誇りを持ち、参加競技種目すべてにおいて上位入賞をめざすものとする。日本代表選手団は、「人間力なくして競技力向上なし」を根幹に据え、行動規範を遵守し、各国・地域との友好親善に寄与できる選手と監督コーチ等をもって編成する。

TEAM JAPAN メダリスト一覧

金メダル

スキー / ジャンプ
■男子 ノーマルヒル
小林 陵侑

スキー / スノーボード
■男子 ハーフパイプ
平野 歩夢

スケート / スピードスケート
■女子 1000m
髙木 美帆

銀メダル

スキー / ジャンプ
■男子 ラージヒル
小林 陵侑

スケート / スピードスケート
■女子 500m
髙木 美帆
■女子 1500m
髙木 美帆
■女子 チームパシュート
髙木 美帆， 佐藤 綾乃
髙木 菜那

スケート / フィギュアスケート
■男子 シングル
鍵山 優真

カーリング
■女子
藤澤 五月， 吉田 知那美
鈴木 夕湖， 吉田 夕梨花
石崎 琴美

銅メダル

スキー / ノルディック複合
■男子 ラージヒル
渡部 暁斗
■男子団体ラージヒル
渡部 暁斗， 山本 涼太
渡部 善斗， 永井 秀昭

スキー / フリースタイル
■男子 モーグル
堀島 行真

スキー / スノーボード
■女子 ハーフパイプ
冨田 せな
■女子 ビッグエア
村瀬 心椛

スケート / スピードスケート
■男子 500m
森重 航

スケート / フィギュアスケート
■男子 シングル
宇野 昌磨
■女子 シングル
坂本 花織
■団体
宇野 昌磨， 鍵山 優真
坂本 花織， 樋口 新葉
木原 龍一， 三浦 璃来
小松原 尊， 小松原 美里

3	6	9

合計 **18**

第32回オリンピック競技大会（2020/東京）

第32回オリンピック競技大会は、2021年7月23日から8月8日までの17日間、東京都を中心に開催されました。本大会には、205のNOCとIOC難民選手団から選手約11,000名の参加がありました。日本代表選手団（TEAM JAPAN）は、選手583名、監督・コーチ等475名、総勢1,058名で編成し、33競技258種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数58個と入賞総数136はともに歴代最多となる成績を収めました。

- **大会期間：2021年7月23日～8月8日**
- **開催場所：東京都他/日本**

【団長】福井 烈　【総監督】尾縣 貢
【主将】山縣 亮太（陸上競技）　【副主将】石川 佳純（卓球）
【旗手】八村 塁（バスケットボール）、須崎 優衣（レスリング）

- **編成数：合計1,058名**
  男子選手：306名、女子選手：277名、監督・コーチ等475名
- **参加NOC数：205NOC、およびIOC難民選手団**
- **実施競技/種目数：33競技 / 339種目（前回28競技/306種目）**
- **日本の参加競技/種目数：33競技 / 258種目**

金メダル	銀メダル	銅メダル
27	14	17

合計58

4TH	5TH	6TH	7TH	8TH
11	29	13	16	9

合計 78

＊メダル総数、入賞総数ともに過去最多
＊前回大会（リオ2016）は、メダル総数41（金：12、銀：8、銅：21）、4位～8位：47の入賞総数88

- **日本代表選手団編成方針**

日本代表選手は、当該競技団体から推薦され、活躍が大いに期待できる者の中から選考し、開催国の代表選手としての自覚と誇りを持ち、参加競技種目すべてにおいて上位入賞をめざすものとする。日本代表選手団は、「人間力なくして競技力向上なし」を根幹に据え、行動規範を厳守し、各国・地域との友好親善に寄与できる選手と監督・コーチ等をもって編成する。

日本代表選手団 メダリスト一覧

金メダル

水泳 / 競泳
- 女子 200m 個人メドレー　大橋 悠依
- 女子 400m 個人メドレー　大橋 悠依

ボクシング
- 女子 フェザー級　入江 聖奈

体操 / 体操競技
- 男子 個人総合　橋本 大輝
- 男子 種目別 / 鉄棒　橋本 大輝

レスリング
- 男子 フリースタイル 65 kg級　乙黒 拓斗
- 女子 フリースタイル 50 kg級　須崎 優衣
- 女子 フリースタイル 53 kg級　向田 真優
- 女子 フリースタイル 57 kg級　川井 梨紗子
- 女子 フリースタイル 62 kg級　川井 友香子

卓球
- 混合 ダブルス　水谷 隼・伊藤 美誠

フェンシング
- 男子 エペ団体　山田 優・見延 和靖　加納 虹輝・宇山 賢

柔道
- 男子 60 kg級　高藤 直寿
- 男子 66 kg級　阿部 一二三
- 男子 73 kg級　大野 将平
- 男子 81 kg級　永瀬 貴規
- 男子 100 kg級　ウルフ アロン
- 女子 52 kg級　阿部 詩
- 女子 70 kg級　新井 千鶴
- 女子 78 kg級　濵田 尚里
- 女子 78 kg超級　素根 輝

野球 / ソフトボール
- 野球
- ソフトボール

空手
- 男子 形　喜友 名諒

スケートボード
- 男子 ストリート　堀米 雄斗
- 女子 ストリート　西矢 椛
- 女子 パーク　四十住 さくら

27

銀メダル

陸上競技
- 男子 20km競歩　池田 向希

水泳 / 競泳
- 男子 200m バタフライ　本多 灯

体操 / 体操競技
- 男子 団体　橋本 大輝・萱 和磨　谷川 航・北園 丈琉

バスケットボール
- 女子

レスリング
- 男子 グレコローマンスタイル 60 kg級　文田 健一郎

自転車 / トラック
- 女子 オムニアム　梶原 悠未

卓球
- 女子 団体　伊藤 美誠・石川 佳純　平野 美宇

柔道
- 女子 48kg級　渡名喜 風南
- 混合 団体　原沢 久喜・ウルフ アロン　向 翔一郎・永瀬 貴規　大野 将平・阿部 一二三　素根 輝・濵田 尚里　新井 千鶴・田代 未来　芳田 司・阿部 詩

ゴルフ
- 女子 個人ストロークプレー　稲見 萌寧

スポーツクライミング
- 女子 複合　野中 生萌

空手
- 女子 形　清水 希容

サーフィン
- 男子 ショートボード　五十嵐 カノア

スケートボード
- 女子 パーク　開 心那

14

銅メダル

陸上競技
- 男子 20km 競歩　山西 利和

ボクシング
- 男子 フライ級　田中 亮明
- 女子 フライ級　並木 月海

体操 / 体操競技
- 男子 種目別 / あん馬　萱 和磨
- 女子 種目別 / ゆか　村上 茉愛

レスリング
- 男子 グレコローマンスタイル 77 kg級　屋比久 翔平

ウエイトリフティング
- 女子 59 kg級　安藤 美希子

卓球
- 女子 シングルス　伊藤 美誠
- 男子 団体　張本 智和・丹羽 孝希　水谷 隼

柔道
- 女子 57 kg級　芳田 司

バドミントン
- 混合 ダブルス　渡辺 勇大・東野 有紗

アーチェリー
- 男子 個人　古川 高晴
- 男子 団体　河田 悠希・古川 高晴　武藤 弘樹

スポーツクライミング
- 女子 複合　野口 啓代

空手
- 組手 75 kg超級　荒賀 龍太郎

サーフィン
- 女子ショートボード　都筑 有夢路

スケートボード
- 女子ストリート　中山 楓奈

17

合計58

FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ（2023/ レークプラシッド）

FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズは、2023年1月12日から22日までの11日間、アメリカ合衆国ニューヨーク州のレークプラシッドで開催されました。本大会には50の国と地域から、選手、監督・コーチ等25,005名の参加がありました。日本代表選手団（TEAM JAPAN）は、選手138名、監督・コーチ等70名、総勢208名で編成、5競技83種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数48個と入賞総数は98となる成績を収めました。

- ◆ 大会期間：2023年1月12日～22日
- ◆ 開催場所：レークプラシッド/アメリカ合衆国

【団長】伊東 秀仁
【主将】森重 航（スケート/スピードスケート）
【旗手】渡邉 愛蓮（スキー/アルペン）

- ◆ 編成数：合計208名
  男子選手：72名、女子選手：66名、監督・コーチ等70名
- ◆ 参加国・地域数：50
- ◆ 参加選手数：2,500
- ◆ 実施競技/種目数：5競技 / 85種目
- ◆ 日本の参加競技/種目数：5競技 / 83種目

金メダル	銀メダル	銅メダル
21	17	10

合計 48

4TH	5TH	6TH	7TH	8TH
14	11	5	8	12

合計 50

TEAM JAPAN TV

2022年6月23日、オリンピックデーに、JOC公式YouTubeチャンネルの新たなトーク番組「TEAM JAPAN TV」の配信を開始しました。この番組は、JOC Vision 2064「スポーツの価値を守り、創り、伝える」に基づき、アスリートの姿を通して、多くの方々に“スポーツが持つ価値”を伝えるとともに、スポーツを通じた明るい未来、よりよい社会づくりに貢献することを目的に制作。2023年3月までに約90本の番組を配信。アスリートの素顔を伝えることで、これまで以上にスポーツやアスリートを身近に感じてもらうことを目指しています。

ON⇆OFF

競技の垣根を越えた複数名のTEAM JAPAN アスリート（日本代表選手）がトークを通し、競技はもちろん、競技外でのアスリートの魅力を引き出します。
番組はONとOFFの2部構成。ONでは、アスリート自身の体験をもとにしたエピソードを中心にトークを展開します。また、OFFではゲーム、食事、対決企画など、競技外でのアスリートの魅力を見ることができます。
初回配信では、渡部暁斗選手（ノルディック複合）が司会進行を務め、宇野昌磨選手（フィギュアスケート）、髙木美帆選手（スピードスケート）らとともに、ONとOFFの姿を見せてくれました。

3 Questions

主役の TEAM JAPAN アスリートが「今、イチバン話を聞いてみたい人」と対談する企画。アスリートが互いに質問できるのは“3つ”のみ。対談相手に聞きたい“3つ”の質問を軸に、想いをぶつけます。
2022年6月24日の配信には、小平奈緒さん、イ・サンファさん（ともにスピードスケート）が登場。戦友であり親友の二人が、競技のことだけでなく、プライベートなことまで掘り下げました。アスリートだけでなく、スポーツ界にとどまらない様々なジャンルの方々との対談も企画される予定です。

Turning Point

TEAM JAPAN アスリートの知られざる苦悩とは――。オリンピアンが経験した挫折、苦悩、乗り越えるきっかけとなった「Turning Point」に迫る企画。どのような道のりを経て今に至ったのか、競技やスポーツが持つ魅力は何か、また、結果を出すことで、感じたこと・見えた景色など、これまでの競技人生をインタビュー形式で深掘りしています。インタビューを通し、子どもたちや学生、若いアスリートだけでなく、すべての人たちに向けて、少しでも勇気につながる情報を発信します。
初回に登場したのは、羽根田卓也選手（カヌー）。ヨーロッパで受けた洗礼や人生観を変えたコーチの一言など、人生が変わった瞬間を語っています。

GREETINGS ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症による制限下で行われた東京2020オリンピック・パラリンピック、北京2022冬季オリンピック・パラリンピックは、改めてスポーツと社会とのつながりを私たちが再認識する機会となりました。日々練習に取り組むこと、競技に全力で臨むことが、当たり前に得られるものではなかったこと、そしてスポーツがどれだけ多くの方々に支えられて成り立っているかということに、多くのスポーツ関係者が改めて気付かされました。同時に、社会に支えられたスポーツが、社会にとってどういう存在であるべきか、また、スポーツが持つ、人をつなぎ、社会を前向きにする力を社会づくりにどう活かしていくかこれまで以上に考えさせられました。

1964年の東京オリンピックは、日本のインフラ整備を推し進めるきっかけとなりました。それから50年以上を経て開催された東京2020オリンピック・パラリンピックは、日本が真の多様性と包摂（ダイバーシティ＆インクルージョン）を備え、誰もが住みやすい社会を目指すひとつのきっかけとなりました。また、2021年のIOC総会では、オリンピックモットー、Faster（より速く）、Higher（より高く）、Stronger（より強く）に、新しくTogether（共に）が加えられました。これらのことは、社会がスポーツに期待すること、そしてスポーツが社会に果たす役割が大きく変わったことを象徴的に表しています。

このようにスポーツと社会の関係が大きく変化する中、JOCは東京2020オリンピック閉幕後の2021年8月に、「JOC Vision 2064 - スポーツの価値を守り、創り、伝える」を公表いたしました。また、同年11月には、新たにTEAM JAPANブランドを発表し、エンブレムも一新しました。TEAM JAPANブランドは、競技団体をはじめとする多くのステークホルダーとともに、これまで以上にスポーツの本質的な価値を広く発信するために構築されたもので、新たなエンブレムは、より多くのアスリート、ステークホルダー、ファンを一体にするものとして北京2022冬季オリンピックから使用しております。

アスリートが全力で競技に挑み、その姿を通じて多くの方に夢や勇気をお届けすることはもちろん、競技以外の場でも、積極的に社会とつながり、スポーツから学んだ経験をこれからの子供たちや社会に伝え、社会課題の解決に役立てる。JOCでは2022年より、そのような新たな取り組みを、「TEAM JAPANソーシャルアクション」として開始しました。また、ソーシャルメディア（SNS）を活用し、アスリートや競技の魅力の発信にも積極的に取り組んでおります。そして、これまで以上に競技団体、関係団体、TEAM JAPANパートナーをはじめとする多くの関係者と共に活動に取り組むために、日本オリンピックミュージアムを活用したプログラムも実施してまいります。

JOCはアスリートの強化はもちろん、スポーツが持つ本質的な価値を、その中心にいるアスリートを通じて広く社会に伝えていく取り組みを積極的に進め、文化としてのスポーツを根付かせるための活動を続けてまいります。そしてこの活動を継続し発展させるためにも、これまで以上に次世代の育成に取り組んでまいります。皆様方の更なるご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

公益財団法人 日本オリンピック委員会
会長 **山下 泰裕**

CONTENTS 目次

3 「JOC Vision 2064」の策定について
4 「JOC Vision 2064」と中期計画
5 BRANDING　TEAM JAPAN ブランド
8 大会派遣
8 ●第 24 回オリンピック冬季競技大会（2022/ 北京）
10 ●第 32 回オリンピック競技大会（2020/ 東京）
11 ●FISU 冬季ワールドユニバーシティゲームズ（2023/ レークプラシッド）
12 TEAM JAPAN TV
13 GREETINGS　ごあいさつ
14 CONTENTS　目次

16 オリンピックの価値発信
日本オリンピックミュージアム
TEAM JAPAN SOCIAL ACTION
●TEAM JAPAN WINTER FEST
●スポーツ環境保全活動（植林活動）
●TEAM JAPAN SYMBOL ATHLETES SOCIAL ACTION
結団式、壮行会
●TEAM JAPAN 結団式・壮行会
成績優秀者等表彰
●JOC スポーツ賞
オリンピック教室
オリンピックデーラン
オリンピアン研修会
オリンピックコンサート
JOC アスリート委員会の活動
JOC パートナー都市
スポーツ祭り
スポーツ情報の提供事業
●広報推進事業
●広報誌「OLYMPIAN」
●JOC 公式ウェブサイト／ SNS
●ラジオ番組「MY OLYMPIC」
スポーツ環境保全活動　スポーツ環境事業
●スポーツと環境カンファレンス
事業広報活動
●ジャーナリストセミナー

34 アスリートの育成・支援
選手強化、強化スタッフの育成・支援
●選手強化中長期戦略プロジェクト
●競技力向上事業（令和 4 年度実績）
●コーチ等設置事業（令和 4 年度実績）
●民間スポーツ振興費等補助事業（令和 4 年度実績）
●将来性を有する選手の発掘及び育成事業
●スポーツ教室・大会、スポーツ指導者の養成・活用事業
●国際競技力向上に関わる情報提供事業
●アンチ・ドーピング推進支援事業

CONTENTS 目次

●スポーツ指導者海外研修事業（令和 4 年度実績：8 名）
●ナショナルトレーニングセンター管理運営事業
●拠点ネットワーク推進事業
●インテグリティ教育事業
●アントラージュへの教育（ジュニアアスリート保護者向けセミナー）

42 **国際交流の推進**
国際戦略の基本方針について
●国際連携
①国際スポーツ組織との関係強化並びに人材育成
●国際スポーツ組織の日本関係者就任一覧
●スポーツ国際展開基盤形成事業・IF 等役員ポスト獲得支援事業ほか（スポーツ庁からの委託）
●JOC/NF 国際フォーラム
●国際人養成アカデミー
●パートナー NOC
②国際貢献事業

52 **JOC 組織力・基盤強化**
JOC マーケティングプログラム
●マーケティングの役割
●マーケティングプログラムの概要
●マーケティングで得た資金の使用用途
●知的財産の保護
●アンブッシュマーケティングの防止
●JOC マーケティングの変遷
●TEAM JAPAN シンボルアスリート・ネクストシンボルアスリート

60 **NF 連携・支援**
スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査事業
NF 総合支援センター事業
●NF 総合支援センター設置経緯
JOC-NF 広報実務者連携セミナー
女性スポーツ推進事業
●スポーツ団体における女性役員の育成支援

64 **関係団体との取組み・JOC 組織体制**
愛知・名古屋 2026 アジア大会開催
札幌招致活動
プライドハウス東京との協定
アスリートへの写真・動画による性的ハラスメント防止の取り組みについて
コンプライアンス
●JOC 加盟団体会長会議／専務理事等会議
●コンプライアンスとガバナンス

68 **JOC 役員**
69 **組織機構図**
69 **事務局組織図**
70 **加盟団体**
71 **令和 4 年度 決算概要**

オリンピックの価値発信

日本オリンピックミュージアム

オリンピックの魅力体験

日本オリンピックミュージアムは“みんなのオリンピックミュージアム”をテーマに、2019年9月14日、JOC、アスリートと来館者が共に創り上げる「日本のオリンピック・ムーブメントの発信拠点」としてオープンしました。次世代を担う子どもたちをはじめ、誰もがオリンピックに親しみ、自ら参加できる魅力あふれる活動を展開しております。スポーツと文化を融合させた、ミュージアムだからこその学びをご紹介します。

1階　WELCOME AREA

さまざまな視点でオリンピック・ムーブメントを発信するエリア

◆ 1964年東京大会ゆかりの木（1階天井や家具）❶

第18回オリンピック競技大会（1964/東京）の時に各国・地域代表選手団が木の種を持ち寄り、全国で植樹されたうち、北海道紋別郡遠軽町で約50年間大事に育てられた160本の一部を天井のルーバーや家具に使用しています。

◆ WELCOME WALL（ウェルカムウォール）❷

2019年に北海道遠軽町とミュージアムが所在する東京都新宿区の小学生を対象としたワークショップを実施しました。オリンピアンとともに、オリンピックについて学んだ後、遠軽町の木材を使用し一人ひとりが想いを込めて製作したオリンピックシンボルを壁面にコラージュしました。

◆ WELCOME VISION（ウェルカムビジョン）❸

オリンピックの世界観やアスリートの躍動感を鮮やかに上映する大迫力の大画面モニターで来館者の皆さまをお出迎えします。

◆ WELCOME SALON（ウェルカムサロン）❹

オリンピック・ムーブメントの発信拠点として、企画展やイベントなど、1年を通してさまざまな催しを企画していきます。

オリンピアン伊藤華英氏（水泳／競泳）、小口貴久氏（リュージュ）と一緒に。

日本オリンピックミュージアムを活用した教育普及事業

JOC オリンピック教室 in JOM

校外学習や修学旅行でミュージアムを訪れる児童生徒に対して、オリンピアンと触れ合いながら館内を見学することができるプログラムです。ミュージアムでしかできない直接的な体験を通して、生活の中にあるオリンピックの価値に気付く力を身に付けてもらうことを目的として実施しています。

基本情報

- ●名称：日本語表記 / 日本オリンピックミュージアム（ニホンオリンピックミュージアム）
  英語表記 /Japan Olympic Museum
- ●運営：公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）
- ●オープン日：2019 年 9 月 14 日（土）
- ●住所：東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号　Japan Sport Olympic Square 1・2F
- ●営業時間：10 時～ 17 時（最終受付 16 時半）
- ●休館日：月曜日（祝日休日の場合は、翌平日）、年末年始、展示切替時期等

※最新情報は公式ウェブサイトをご参照ください。

JAPAN OLYMPIC MUSEUM
日本 オリンピックミュージアム

2階　EXHIBITION AREA

オリンピックを知る、学ぶ、感じる、挑戦する、考えるエリア

◆ イントロダクション

「オリンピックってなんだろう？」という問いかけで始まるこのコーナーでは、大会のはじまりから、人類最大の祭典になるまでのストーリーを伝えます。円を囲むようにして視聴する映像体験で、一人ひとりがオリンピックとのつながりを感じることができます。

◆ KNOW ／知る - 世界とオリンピック ❺

平和の祭典として性別・人種・宗教などいかなる種類の差別を受けることなく平等な参加機会の提供を推進してきたオリンピックの進化の歴史について学びます。

◆ LEARN ／学ぶ - 日本とオリンピック ❻

日本が初めてオリンピックに参加したのは1912年ストックホルム大会。それから100年を超える歴史の中で、日本がオリンピックに与えた影響を学びます。

◆ TRY ／挑戦する - オリンピックゲームス ❼

夏季・冬季大会の全競技を紹介するとともに、7つのブースでオリンピアンのパフォーマンスに挑戦できる体験ゾーンです。走る・投げる・跳ぶなど、体験者は体の動きをブース内で測定し、オリンピアンのパフォーマンスに挑戦することができます。

◆ FEEL ／感じる - オリンピックシアター ❽

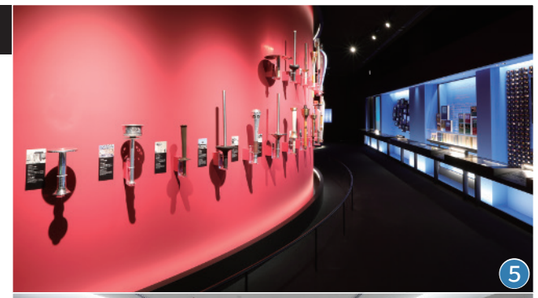
アスリートの身体的な卓越性を芸術的に表現した映像作品を臨場感あふれる映像と音響で体感できます。

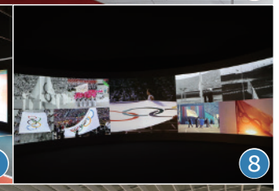
◆ THINK ／考える - オリンピズムストーリー ❾

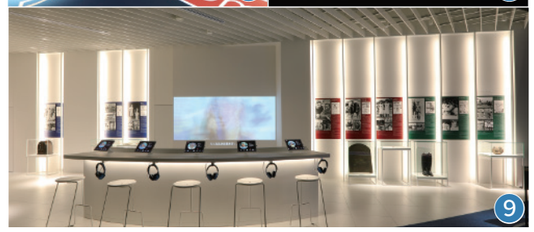
競い合う相手やチームの仲間への理解や敬意、目標に向かって全力で取り組む姿勢を体現したオリンピアンへのインタビューやエピソードから、オリンピズムについて考えます。

◆ エンディング

館内での体験を経た皆さまが足を止め「オリンピックってなんだろう？」という問いかけについて思いを巡らせるコーナーです。







屋外　MONUMENT AREA

オリンピック・ムーブメントを体験し、レガシーを継承する広場です。国立競技場を背景に記念撮影いただけます。

1964年東京大会聖火台（縮尺3/4）

1972年札幌大会聖火台（縮尺2/3）

1998年長野大会聖火台（縮尺1/2）

ピエール・ド・クーベルタン像

嘉納 治五郎像

オリンピックシンボルモニュメント

TEAM JAPAN SOCIAL ACTION

JOC Vision 2064の活動指針の1つである「スポーツで社会課題の解決に貢献」を実現していくためにJOCでは「TEAM JAPAN SOCIAL ACTION」として、SDGsをはじめとした社会貢献活動を実施しています。

TEAM JAPAN WINTER FEST

北京2022冬季オリンピックの1周年記念イベントとして、2023年2月11日、12日の2日間、「TEAM JAPAN WINTER FEST」を三井ショッピングパーク アーバンドック ららぽーと豊洲で開催しました。北京2022冬季オリンピックの期間中にいただいた多くの声援に対してオリンピアンが改めて感謝を伝えるとともに、スポーツを通じて多くの方々と社会課題の解決に向けて考えられるような呼びかけをオリンピアン自身が発信しました。今回は、気候変動の影響を大きく受けるウインタースポーツに焦点を当てた内容で構成し、多くの子どもたちに興味関心を持ってもらえるよう、実物の雪に触れてもらったりするなど、環境保全の大切さに気づいていただくことを目指しました。また、当日参加したオリンピアンによるトークショーやオリンピアンと対決できるゲーム企画など、さまざまなアトラクションや企画を通して、オリンピアンと来場した方々が交流を深めることができました。

日時：2023年2月11日（土・祝）、12日（日）
場所：三井ショッピングパーク アーバンドック ららぽーと豊洲 シーサイドデッキ（中庭）メインステージ周辺
主催：公益財団法人日本オリンピック委員会
協力：公益財団法人全日本スキー連盟、公益財団法人日本スケート連盟、公益財団法人日本アイスホッケー連盟、公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟、公益社団法人日本カーリング協会、一般社団法人日本バイアスロン連盟、一般財団法人冬季産業再生機構、三井不動産株式会社、株式会社アフロ
内容：〈雪コンテンツ〉雪のひろば、雪だるま展示、ミニ雪像づくり、雪のミニ滑り台
〈ステージコンテンツ〉アスリートトークショー、クイズ大会（テーマ：冬季オリンピック、ウィンタースポーツ、TEAM JAPAN、環境問題等）、オリンピアンに挑戦するコーナー（体を使ったゲームで対決）
〈その他〉フォトスポット（ボブスレー・リュージュ・スケルトン展示等）、報道写真展、TEAM JAPANオフィシャルショップ
参加オリンピアン：
上村 愛子（スキー/フリースタイル）、荻原 次晴（スキー/ノルディック複合）、久保 英恵（アイスホッケー）、高木 菜那（スケート/スピードスケート）、樋口 新葉（スケート/フィギュアスケート）、松田 丈志（水泳/競泳、JOCアスリート委員長）、勅使川原 郁恵（スケート/ショートトラック）、鈴木 寛（ボブスレー）

スポーツ環境保全活動（植林活動）

環境保全を通じての社会貢献活動の一環として、TEAM JAPANゴールドパートナーである三井不動産株式会社と共に、同社の保有林にて植林活動を実施いたしました。地元関係者から1本の木が吸収する二酸化炭素量や、植林の進め方等についての説明を受けた後、2人1組で1人が20センチ程度の穴を掘り、もう1人がその穴にグイマツの苗木を植付け、合計100本以上を植林いたしました。

実施日：2022年10月21日（金）
実施場所：北海道上川郡美瑛町三井不動産保有林
参加JOCアスリート委員：松田 丈志、高橋 成美、太田 雄貴、小口 貴久、寺尾 悟、三宅 宏実

TEAM JAPAN SYMBOL ATHLETES SOCIAL ACTION

2022年より始動したTEAM JAPANシンボルアスリートが行うSOCIAL ACTIONとして、スポーツを通じて様々な社会課題に取り組む活動を支援するプログラム。JOC、パートナー都市をはじめとする自治体、競技団体等のサポートを受けながら、シンボルアスリートが自らプログラムの企画に取り組みます。

●「未来につなぐスケートの輪 on NAO Ice OVAL」/小平奈緒さん

TEAM JAPANシンボルアスリートSOCIAL ACTIONの第一弾として、2022年11月23日（水・祝）に、同年10月に引退した小平奈緒さん（スケート／スピードスケート）とともに、「未来につなぐスケートの輪 on NAO Ice OVAL」を開催しました。小平さんのスケートを愛する心を受け継ぎ、オリンピックを目指すきっかけにするとともに、スケートと真摯に向き合い、世界の人々から愛された小平さんの人間性に触れることで「たくましく、やさしい、夢のある子ども」に育つことを目指して、長野県茅野市との共催で実施しました。次世代のオリンピアンを目指して長野県内のスケートクラブに所属する小・中学生154名が参加し、プログラムを楽しみました。

日時：2022年11月23日（水・祝）
場所：NAO Ice OVAL（茅野市国際スケートセンター）
主催：公益財団法人日本オリンピック委員会、茅野市
協力：茅野市国際スケートセンター、茅野市スケート協会
対象：長野県内の小中学生154名
内容：①小平さん講演
②交流会（小平さんと子供たちで各種ゲームを実施）
③小平さん＆コーチによるスケート講座
※雨天プログラム
④記念撮影

結団式、壮行会

TEAM JAPAN結団式・壮行会

オリンピック競技大会、ユースオリンピック競技大会、アジア競技大会、FISUワールドユニバーシティーゲームズ等に派遣するTEAM JAPAN結団式と壮行会（オリンピックのみ）を実施しています。

●第32回オリンピック競技大会（2020／東京）
TEAM JAPAN（日本代表選手団）結団式
日時：2021年7月6日（火）　17時30分～18時30分

新型コロナウイルス感染症対策として、式典は参加人数を限定して実施しました。式典には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がオンラインでご視聴のもと、福井烈団長、尾縣貢総監督、山縣亮太主将（陸上競技）、石川佳純副主将（卓球）、須﨑優衣旗手（レスリング）が出席。また、海外での遠征・合宿等に参加している選手らを除く767名がオンラインで出席しました。

TEAM JAPAN（日本代表選手団）壮行会
日時：2021年7月6日（火）　19時00分～19時40分

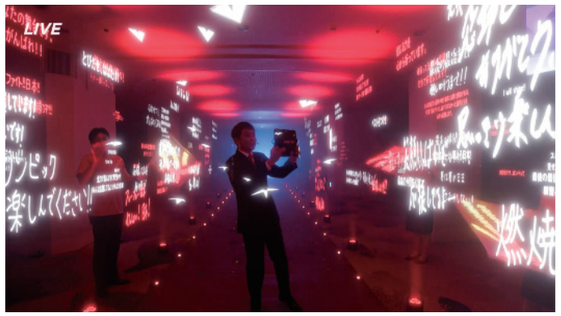
結団式同様、新型コロナウイルス感染症対策のため参加人数を限定し、オンラインで開催しました。会場となった日本オリンピックミュージアムには結団式に引き続き、福井烈団長、尾縣貢総監督、山縣亮太主将（陸上競技）、石川佳純副主将（卓球）、須﨑優衣旗手（レスリング）が出席。また、遠征・合宿等に参加している選手らを除く約800名がオンラインで参加しました。公式応援団長の松岡修造さん、MCの平井理央さんの進行のもと、2019年より実施してきた応援プロジェクトによって全国から集まったメッセージ入りの「団結ORIGAMI」も披露されました。応援パフォーマンスとして光と音楽、映像が融合したダンスが披露され、アーティストのゆずが登場し「栄光の架け橋」を熱唱。さらに、ゆずの力強い歌声に合わせて、画面上には「日本代表選手団にエールを送ろう」特設サイトに寄せられた全国からの応援メッセージの数々が映し出され、オンライン上の選手へと届けられました。

●第24回オリンピック冬季競技大会（2022／北京）
TEAM JAPAN 結団式
日時：2022年1月29日（土）　16時00分～16時45分

新型コロナウイルス感染症対策として、式典は参加人数を限定して実施しました。式典は、秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席のもと、伊東秀仁団長、原田雅彦総監督、髙木美帆主将（スケート/スピードスケート）、郷亜里砂旗手（スケート/スピードスケート）が出席。また、海外での遠征・合宿等に参加している選手らを除く約80名がオンラインで出席しました。

TEAM JAPAN選手団へ向けたエールパフォーマンス
日時：2022年1月29日（土）　17時30分～17時40分

結団式の後、オンラインを通じてTEAM JAPAN選手団へ向けたエールパフォーマンスが行われました。中山秀征さんの進行のもと、北京へと飛び立つ滑走路をイメージしたステージで、紙飛行機とともに国民の皆さんからTEAM JAPANへ寄せられた応援メッセージの数々がAR（拡張現実）技術で浮かび上がり、視聴している選手へと届けられました。応援パフォーマンスとして、光と音楽が融合したダンスが披露され、続いて女性ボーカルグループのLittle Glee Monsterが『世界はあなたに笑いかけている』、『ECHO』の2曲を熱唱しました。



成績優秀者等表彰

JOCスポーツ賞

JOCでは、オリンピック・ムーブメントの推進とスポーツの各分野で優れた成果を収めた選手や指導者の栄誉、功績を讃えています。
令和3年度JOCスポーツ賞は、最優秀賞に第24回オリンピック冬季競技大会（2022/北京）で金メダルを含む4つのメダルを獲得したスケート／スピードスケートの髙木美帆選手が選ばれたほか、特別栄誉賞、優秀賞、新人賞、特別功労賞、特別貢献賞、トップアスリートサポート賞、女性スポーツ賞を含め、22選手・団体の表彰者が選出されました。
令和4年度 JOCスポーツ賞では、最優秀賞に第51回世界体操競技選手権大会で個人総合1位を含む4つのメダルを獲得した橋本大輝選手が選ばれたほか、特別栄誉賞、優秀賞、新人賞、特別功労賞、特別貢献賞、女性スポーツ賞を含め、16選手・団体の表彰者が選出されました。

●令和3年度JOCスポーツ賞　受賞者一覧

年度賞／最優秀賞

■スケート／スピードスケート
髙木 美帆
第24回オリンピック冬季競技大会（2022/北京）女子1,000m 1位
※女子1,000mでオリンピック新記録を樹立し、金メダルを含む4つのメダルを獲得。

年度賞／特別栄誉賞

■水泳／競泳
大橋 悠依
第32回オリンピック競技大会（2020/東京）
女子200m個人メドレー1位
女子400m個人メドレー1位
※日本女子選手にて夏季オリンピックで初めて同一大会で2個の金メダルを獲得。

■スキー／スノーボード
平野 歩夢
第24回オリンピック冬季競技大会（2022/北京）
男子ハーフパイプ1位
※スノーボード日本初の金メダル獲得。

年度賞／優秀賞

■ボクシング
入江 聖奈
第32回オリンピック競技大会（2020/東京）女子フェザー級1位
※日本ボクシング女子史上初の金メダル獲得。鳥取県出身で初の金メダル獲得。

■体操／体操競技
橋本 大輝
第32回オリンピック競技大会（2020/東京）
男子個人総合1位　男子種目別鉄棒1位　団体総合2位
※オリンピック初出場で個人総合、種目別鉄棒で金メダルを獲得。種目別鉄棒では37年ぶりの金メダルを獲得。

■卓球
水谷 隼／伊藤 美誠
第32回オリンピック競技大会（2020/東京）混合ダブルス1位
※混合ダブルス日本卓球史上初の金メダル。

■スキー／ジャンプ
小林 陵侑
第24回オリンピック冬季競技大会（2022/北京）
男子ノーマルヒル個人1位　男子ラージヒル個人2位
※スキー/ジャンプ24年ぶりの金メダル獲得。

年度賞／新人賞

■スケートボード
西矢 椛
第32回オリンピック競技大会（2020/東京）女子ストリート1位
※オリンピック日本史上最年少で金メダル獲得。

■スキー／スノーボード
村瀬 心椛
第24回オリンピック冬季競技大会（2022/北京）女子ビッグエア3位
※冬季オリンピックにおいて日本女子最年少でメダル獲得。

年度賞／特別功労賞

■空手
喜友名 諒
第32回オリンピック競技大会（2020/東京）形/男子形1位
※追加種目として採用され初の金メダル獲得。沖縄県出身で初の金メダル獲得。

■フェンシング
山田 優／見延 和靖／加納 虹輝／宇山 賢
第32回オリンピック競技大会（2020/東京）男子エペ団体1位
※エペ団体史上初の金メダル獲得。

■スケート／フィギュアスケート
鍵山 優真
第24回オリンピック冬季競技大会（2022/北京）男子シングル2位
※日本フィギュア史上最年少で銀メダル獲得。

■カーリング
女子カーリングチーム
第24回オリンピック冬季競技大会（2022/北京）女子団体2位
※カーリング女子日本史上初の銀メダル獲得。

特別貢献賞

東京2020大会ボランティア
コロナ禍の状況下において大会運営のサポートをはじめ、無観客での開催となる中、アスリートや関係者に寄り添い、大会に携わる全ての人々の心の支えとなった。また、日本国内のみならず、世界中からボランティアに対する感謝、称賛の声が寄せられた。

女性スポーツ賞

■サッカー
公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ
日本の女性活躍社会を牽引し、日本に「女性プロスポーツ」を根付かせるよう2021年9月に日本初の女子プロサッカーリーグを開幕。女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する理念を掲げ活動。また、世界一アクティブな女性コミュニティ、世界一の女子サッカー/世界一のリーグ価値をというビジョンを掲げて活動。

トップアスリートサポート賞

〈最優秀団体賞〉
- ●パーク24株式会社

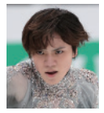
〈優秀団体賞〉
- ●旭化成株式会社
- ●自衛隊体育学校
- ●スターツコーポレーション株式会社
- ●セントラルスポーツ株式会社
- ●株式会社土屋ホーム
- ●日本体育大学

●令和４年度JOCスポーツ賞　受賞者一覧

年度賞／最優秀賞

■体操／体操競技
橋本 大輝
第51回世界体操競技選手権大会
男子個人総合１位　男子種目別ゆか２位　男子種目別鉄棒２位　男子団体２位
※金メダルを含むメダル４つを獲得。

年度賞／特別栄誉賞



■スケート／フィギュアスケート
宇野 昌磨
ISU世界フィギュアスケート選手権大会2023
男子シングル１位
※日本男子シングル初の世界選手権２連覇。

■スケート／フィギュアスケート
坂本 花織
ISU世界フィギュアスケート選手権大会2023
女子シングル１位
※日本女子シングル初の世界選手権２連覇。

年度賞／優秀賞

■陸上競技
山西 利和
第18回世界陸上競技選手権大会 男子20km競歩１位
※日本選手の世界選手権２連覇は男女を通じて初。

■バドミントン
山口 茜
第27回世界バドミントン選手権大会2022 女子シングルス１位
※女子シングルスにおいて日本選手初の世界選手権２連覇。

■サーフィン
五十嵐 カノア
2022 ISA World Surfing Games 男子個人１位
※１回戦から決勝までの７試合すべて１位のパーフェクト優勝。日本選手初の金メダル獲得。

■スケート／フィギュアスケート
三浦 璃来／木原 龍一
ISU世界フィギュアスケート選手権大会2023 ペア１位
※グランプリファイナル、四大陸選手権、世界選手権と同一シーズンで主要国際大会を全て制し、日本勢初となるグランドスラムを達成。

■フェンシング
江村 美咲
2022フェンシング世界選手権大会（エジプト/カイロ）
女子サーブル個人１位
※女子サーブルにおいて日本選手初の世界選手権金メダル獲得。

年度賞／新人賞

■スキー／スノーボード
長谷川 帝勝
2023 FISフリースタイル＆スノーボード世界選手権大会
男子ビッグエア１位
※男子ビッグエアにおいて日本選手初となる世界選手権金メダルを獲得。

■ゴルフ
馬場 咲希
2022 全米女子アマチュアゴルフ選手権 女子ゴルフ１位
※全米女子アマチュアゴルフ選手権において日本選手優勝は37年ぶり２人目。

年度賞／特別功労賞

■陸上競技
北口 榛花
第18回世界陸上競技選手権大会 女子やり投３位
※陸上女子フィールド種目で、オリンピック・世界選手権を通じて史上初となるメダルを獲得。

■スキー／スノーボード
三木 つばき
2023 FISフリースタイル＆スノーボード世界選手権大会
女子パラレル大回転１位
※女子パラレル大回転において、日本選手初の世界選手権金メダルを獲得。

■スキー／ジャンプ
小林 陵侑
2023 FISノルディックスキー世界選手権大会 男子個人ラージヒル２位
※世界選手権の個人種目においてジャンプ男子日本勢のメダル獲得は20年ぶり。

■自転車／BMXフリースタイル
中村 輪夢
2022 UCIアーバンサイクリング世界選手権大会
男子BMXフリースタイル・パーク１位
※東京2020大会で正式種目となったBMXフリースタイルにおいて世界選手権日本選手初の金メダルを獲得。

特別貢献賞

■野球
日本代表チーム
2023ワールド・ベースボール・クラシック優勝
※14年ぶり３度目の優勝。日本全国はもとより、未来を担う世界中の子供たちに勇気と感動をとどけ、スポーツ界の発展に大きく貢献した。

女性スポーツ賞

■サッカー
山下 良美
2022年FIFAワールドカップで史上初の女性審判員として選出された。技量等があれば性別に関係なくより高みを目指せることを証明し、スポーツ界における女性活躍を牽引。また、多くのメディアにも取り上げられ、サッカーへの関心や注目、「審判員」という役割を多くの方に認知してもらうことにも貢献した。国際審判員として多くの国際大会で審判を務め、国際貢献にも尽力した。

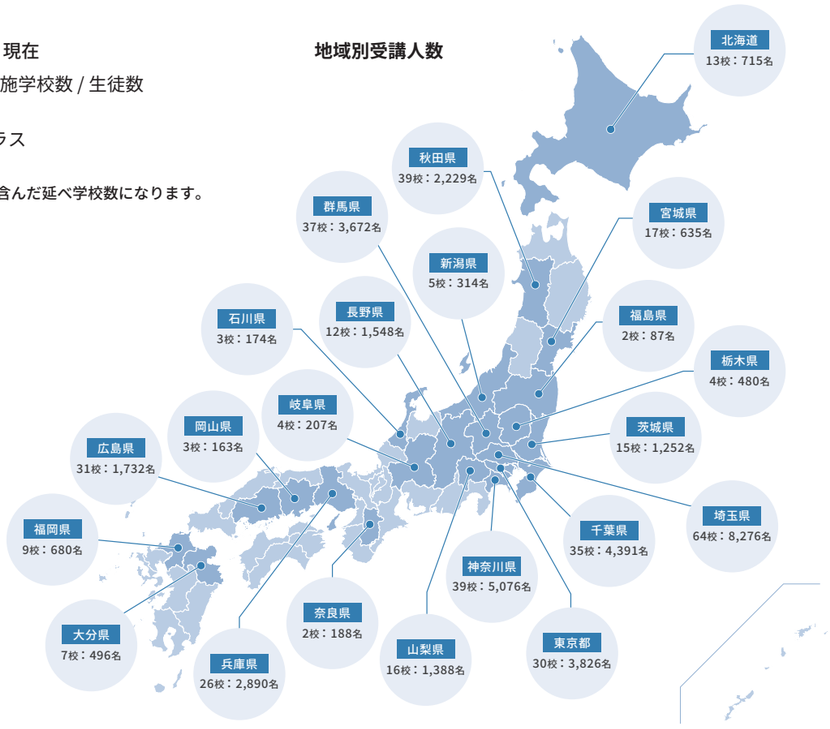
オリンピック教室

現行の学習指導要領では、中学校「保健体育 体育分野」および高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されています。オリンピックの意義は、中学校３年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」と明示されております。これを受けてJOCでは、平成23年度（2011年）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校２年生を対象に、オリンピック教室を実施しています。オリンピック教室の授業は、教師役のオリンピアンが、オリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場して得た貴重な体験等を通して、卓越（Excellence）、友情（Friendship）、敬意/尊重（Respect）といったオリンピックの価値を伝え、「努力から得られる喜び（Joy of effort）」、「フェアプレー（Fair play）」、「他者への敬意（Respect for others）」、「向上心（Pursuit of excellence）」、「体と頭と心のバランス（Balance between body, will and mind）」といったオリンピック精神の教育的価値を伝えています。また同時に、この価値がオリンピック競技大会に出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも生かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピック競技大会に価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしています。
なお、学校および自治体の了承が得られた場合に限り、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じた上で開催することといたしました。

実施エリア　2023年３月現在

2011年度～2022年度 実施学校数 / 生徒数
実施学校数：413校
実施クラス数：1,215クラス
生徒数：40,419名
※複数回実施している学校を含んだ延べ学校数になります。

地域別受講人数



オリンピックデーラン

オリンピックデーランは、6月23日のオリンピックデーを記念して全世界で行われているオリンピックデー記念イベントのひとつです。日本ではJOCが主体となり、昭和62年（1987年）より全国で実施しており、現在までの延べ参加者数が60万人を超える事業となりました。誰もが参加しやすい2km～4kmのジョギングを中心としたイベントで、オリンピアンと一緒にさまざまなプログラムを体験することで、スポーツの楽しさとオリンピックの価値やオリンピズムを理解していただくことを目的としています。
なお、開催地の了承が得られた場合に限り、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じた上で開催することといたしました。

オリンピアン研修会

オリンピアン研修会は、JOCオリンピック・ムーブメント事業専門部会所管の下、同アスリート委員会が中心となって、オリンピアン自身がオリンピズムやオリンピックの価値を改めて学び、オリンピック・ムーブメント各種事業への積極的な参加を促すとともに、自身の今後の活動に役立てることを目的に開催しています。講師を招いてオリンピックやパラリンピックについての基礎知識を学ぶ他、グループディスカッション等を行い、オンラインでの開催を含め、オリンピアン同士のネットワーク構築も促進しています。

■主な内容
オリンピックの基礎知識、パラリンピックについて、
JOC実施諸事業について、グループディスカッション他

2021年度
2022年3月5日（土）
会場：オンライン
人数：オリンピアン35名

2022年度
2022年11月26日（土）
会場：オンライン
人数：オリンピアン39名

オリンピックコンサート

オリンピックコンサートは、6月23日のオリンピックデーを記念して全世界で行われているオリンピックデーイベントの一環として、1997年からJOCが主催する日本独自のイベントです。オリンピック競技大会の映像とオーケストラの演奏によるスポーツと文化の融合を実現したコンサートで、スポーツファンのみならず、普段スポーツやオリンピックに親しみのない音楽ファンにもオリンピックの価値や素晴らしさを実感してもらうことを目的に実施しています。

■ オリンピックコンサート2021「勇気をありがとう、感動をありがとう」
日　時　2021年10月12日（火）18時00分～
会　場　東京芸術劇場コンサートホール
参加アスリート　【オリンピアン】
水泳/競泳：本多 灯
ボクシング：並木 月海
レスリング：乙黒 拓斗、向田 真優
自転車/トラック：梶原 悠未
フェンシング：山田 優、見延 和靖、加納 虹輝、宇山 賢
柔道：髙藤 直寿、阿部 一二三、阿部 詩、新井 千鶴、濵田 尚里、渡名喜 風南
アーチェリー：河田 悠希、武藤 弘樹
スポーツクライミング：野中 生萌、野口 啓代
スケートボード：中山 楓奈
【パラリンピアン】
陸上競技：佐藤 友祈、高松 佑圭
柔道：瀬戸 勇次郎、小川 和紗
水泳：鈴木 孝幸、山口 尚秀、木村 敬一
車いすラグビー：池崎 大輔

■ オリンピックコンサート2022「夢をありがとう、つなごう明日へ」
日　時　2022年6月16日（木）18時30分～
会　場　東京国際フォーラムホールA
参加アスリート　【オリンピアン】
スキー/ノルディック複合：永井 秀昭
スキー/スノーボード：村瀬 心椛
体操/体操競技：橋本 大輝
スケート/スピードスケート：髙木 美帆、髙木 菜那
スケート/フィギュアスケート：鍵山 優真
フェンシング：山田 優、見延 和靖、加納 虹輝、宇山 賢
空手：喜友名 諒
スケートボード：西矢 椛
【パラリンピアン】
クロスカントリースキー：川除 大輝

特別公演
■ オリンピックコンサート2022 in ふくしま
日　時　2022年1月15日（土）18時00分～
会　場　けんしん郡山文化センター大ホール

JOC アスリート委員会の活動

NFアスリート委員会の現状や課題、JOCアスリート委員会との横断施策、企画立案等について、参加者と意見交換を行い、JOC及びNFアスリート委員会との更なる連携強化を図り、今後のNFアスリート委員会における活動指針決定等の際の有益な情報提供等を行うことを目的に、NFアスリート委員会との合同ミーティングを開催しています。

■ NFアスリート委員会合同ミーティング

第1回
日時：2022年9月14日（水）16時00分～18時00分
開催場所：JSOS及びオンライン
参加者数：41団体69名
主な内容：・IOC及びOCAアスリート委員会の課題と課題解消に向けた取組
・NFアスリート委員会活動事例紹介　等

第2回
日時：2023年3月14日（火）16時00分～18時00分
開催場所：JSOS及びオンライン
参加者数：30団体62名
主な内容：・NFアスリート委員会との意見交換
・各種情報提供　等

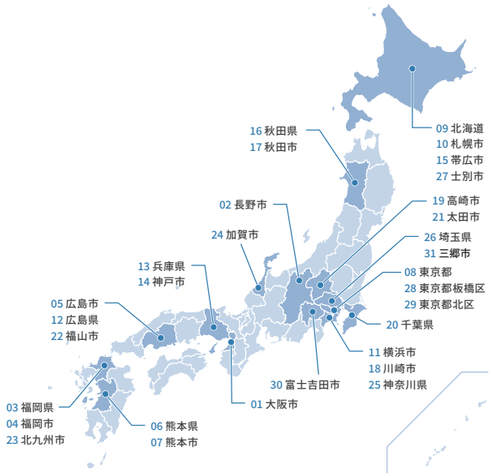
JOC パートナー都市

「JOCパートナー都市協定」は、2001年5月にJOCが策定した国際競技力向上戦略（JOC GOLD PLAN）の「強化拠点ネットワーク構想」の一環として、各都市（都道府県もしくは市）と連携し、自治体が所有するスポーツ施設をトップアスリートの選手強化に活用し、競技力向上を図ることを目的にスタートしました。平成30（2018）年度に初期の目的が概ね達成されたことから、パートナー都市の位置付けの見直しを行い、今後は主にJOCと連携したオリンピック・ムーブメント推進事業を、継続的かつ長期的に実施していただける都市と締結していくこととなりました。本協定に基づき、JOCは締結都市と共に、今後も双方にとってメリットのあるオリンピック・ムーブメント推進事業を実施していきます。

	都市名	締結日
01	大阪市	平成14年 7月30日
02	長野市	平成15年 8月28日
03	福岡県	平成16年11月26日
04	福岡市	平成17年 4月15日
05	広島市	平成17年 9月14日
06	熊本県	平成18年 5月11日
07	熊本市	平成18年 5月11日
08	東京都	平成19年 3月 5日
09	北海道	平成19年12月18日
10	札幌市	平成19年12月18日
11	横浜市	平成20年 3月28日
12	広島県	平成20年 4月14日
13	兵庫県	平成20年12月 1日
14	神戸市	平成20年12月 1日
15	帯広市	平成24年 3月 3日
16	秋田県	平成24年 5月15日

	都市名	締結日
17	秋田市	平成24年 5月15日
18	川崎市	平成27年 3月30日
19	高崎市	平成27年 4月 3日
20	千葉県	平成28年 2月 5日
21	太田市	平成28年 5月23日
22	福山市	平成28年 7月16日
23	北九州市	平成28年12月16日
24	加賀市	平成29年 4月18日
25	神奈川県	平成29年 4月21日
26	埼玉県	平成29年 6月16日
27	士別市	令和元年 6月11日
28	東京都板橋区	令和元年 8月30日
29	東京都北区	令和元年 8月30日
30	富士吉田市	令和2年 3月 4日
31	三郷市	令和4年 1月13日

2022年3月31日現在



スポーツ祭り

2020年「体育の日」から「スポーツの日」に名称変更された「スポーツの日」中央記念行事は、スポーツ界が一体となって行われる一大スポーツイベントです。日本を代表するオリンピアンやトップアスリートも参加し、例年１万人を超える参加者にスポーツの楽しさや大切さを伝えます。ジョギングや運動会、各種スポーツ教室、トークショーなどが行われますが、令和３（2021）年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からオンラインで、令和４（2022）年度は、一部対面を含むオンラインで開催いたしました。

■ スポーツ祭り 2021

オンライン公開期間：2022年１月10日（月・祝）～２月13日（日）
参加オリンピアン・パラリンピアン・アスリート：３名
主なプログラム：特設サイトでの映像コンテンツ公開、
トークショーライブ配信（2022年１月16日（日））

■ スポーツ祭り 2022

オンライン公開期間：2022年10月３日（月）～11月13日（日）
開催場所：味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト
※アスリートトークショーのみ
参加者：50名 ※アスリートトークショーのみ
参加オリンピアン・パラリンピアン・アスリート：９名
主なプログラム：特設サイトでの映像コンテンツ公開、
アスリートトークショー（2022年10月10日（月・祝））

スポーツ情報の提供事業

広報推進事業

オリンピック競技大会、アジア競技大会、FISUワールドユニバーシティゲームズをはじめとする国際総合競技大会や、スポーツに関する各種情報を、公式ウェブサイトやSNS、広報誌「OLYMPIAN」、を通して発信しています。

広報誌「OLYMPIAN」

広報誌「OLYMPIAN」は年１回、冊子版とデジタル版で発行しています。読者がオリンピックについてもっと身近に感じられるような内容を目指し、オリンピアンや若手アスリートのインタビュー記事、JOCの中心的事業の紹介を掲載しています。

JOC公式ウェブサイト／SNS

JOC公式ウェブサイトでは写真、動画、ニュース、コラム等を掲載し、オリンピック・ムーブメントに関わるさまざまな情報を発信しています。各事業の実績や、各競技大会のTEAM JAPAN選手団、成績、関連ニュース等も閲覧することができます。また、FacebookやTwitter、Instagram等の公式SNSを活用し情報発信を行い、アスリートの活躍やJOC事業への共感の輪を広げられるよう、効果的な配信を行っています。

■ URL, アカウント

Website	https://www.joc.or.jp
Facebook	Team JAPAN
X（旧Twitter）	TeamJapan
Instagram	teamjapanjoc
TikTok	japan_olympic
LINE	team_japan
YouTube	TEAMJAPAN

ラジオ番組「MY OLYMPIC」

JAPAN FM NETWORK（JFN）加盟のFMラジオ全局の協力を得て、1999年からJOC企画スポーツ番組「MY OLYMPIC」を放送しています。オリンピック競技大会出場経験のあるアスリートから、将来オリンピック競技大会出場が期待されるジュニア選手まで、オリンピック競技大会に出場して得たものや、出場を目指す選手たちが日々感じること、オリンピック競技大会出場にかける夢や情熱、また競技の楽しさを語っていただいています。

ナビゲーター　荒川 静香、高橋 尚子
放送局　JFN全国38局ネット
放送時間　MY OLYMPIC　毎週月～金曜日 6:55～7:00
MY OLYMPIC α　毎週月～金曜日 14:55～15:00
MY OLYMPIC＋　毎週土曜日 22:30～22:55
※FM福岡は5:55～6:00、
FM青森・FMぐんま・岐阜FMでは同日23:55～24:00に再放送
企 画　公益財団法人日本オリンピック委員会
制 作　JAPAN FM NETWORK 加盟各社
※JOC公式ホームページ《https://www.joc.or.jp》

スポーツ環境保全活動　スポーツ環境事業

いつまでもスポーツを楽しめる地球環境であるためにJOCではオリンピック選手やチームを通じて環境保全のメッセージを伝えたり、また、競技会場にポスターや横断幕を掲示するなど、環境保全のための啓発活動を進めています。

スポーツと環境カンファレンス

地域のスポーツ関係者と共に、環境保全の必要性とその実践方法をスポーツ関係団体の具体的な実践例を交えて学ぶことを目的として、年に1度、JOCパートナー都市をはじめとした協力団体と共催し「JOCスポーツと環境・地域セミナー」を実施してきました。2021年度より、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）と共催し、「スポーツと環境カンファレンス2022」として、加盟団体関係者を含む参加者とともに、環境保護の必要性やSDGsについて考え、どのように実践するかを学ぶことや、啓発・実践活動に関する最新情報の提供を目的として開催しています。

■ スポーツと環境カンファレンス2022

開催日：2022年3月12日（土）
場所：オンライン
参加オリンピアン：
上田 藍（トライアスロン）
小塚 崇彦（スケート/フィギュアスケート）
内容：・オープニングレクチャー（全体趣旨説明、講師紹介）
・基調講演「スポーツと環境概論」
・パネルディスカッション

■ 令和4年度スポーツと環境カンファレンス
第16回JOCスポーツと環境・地域セミナー

開催日：2022年12月3日（土）
場所：JSOSでの対面及びオンライン
参加オリンピアン：
近江谷 杏菜（カーリング）
小口 貴久（リュージュ）
皆川 賢太郎（スキー/アルペンスキー）
内容：・オープニングレクチャー（全体趣旨説明、講師紹介）
・基調講演「スポーツと環境概論」
・競技団体における環境保全活動事例紹介
・パネルディスカッション

各種製作物

■ 環境保全啓発ポスター

JOCでは環境保全啓発を目的としたポスターを作製しています。ポスターと電子データをJOC加盟団体や関係団体へ配布し、主催事業や大会の会場に掲示、大会のパンフレット等にもポスターデザインを掲載する等、スポーツ界が一丸となった環境保全啓発活動を展開しています。

■ 環境保全啓発横断幕

JOCでは環境保全啓発を目的とした横断幕を作製し、JOC加盟団体へ貸出を行っております。主催事業や大会の会場に掲示し、参加者・来場者に対する環境保全啓発活動を展開しています。

■ スポーツと環境に関するアスリートメッセージ映像

環境省が推奨する「COOL CHOICE」普及啓発事業と連携し、スポーツと環境に関するアスリートメッセージ映像を制作しています。JOC事業をはじめ、競技団体が主催する大会やイベント会場のオーロラビジョンでの放映や、公式ウェブサイト、SNSを通じて、スポーツ界の環境啓発を図ることを目的としています。

事業広報活動

ジャーナリストセミナー

オリンピック・ムーブメント推進事業の一環として、メディアと競技団体（NF）の相互理解を推進することを目的に開催しています。

2021年5月31日　テーマ：多様性について考える

- 基調講演　「スポーツ界の多様性を考える ～LGBTQの視点から～」
  NPO法人東京レインボープライド共同代表理事 元フェンシング女子日本代表　杉山 文野
- 学び①
  「パラリンピックを通して考える共生社会」
  日本パラリンピック委員会 委員長　河合 純一
- 学び②
  「多様性について」
  バスケットボール女子日本代表候補選手
  （トヨタ自動車 アンテロープス所属）　馬瓜 エブリン
- 意見交換　杉山 文野、河合 純一、馬瓜 エブリン
  モデレーター：朝日新聞　稲垣 康介
- 東京2020大会からの情報提供
  「ジェンダー平等/多様性と調和の推進に向けた取組について」
  東京2020組織委員会スポーツディレクター
  ジェンダー平等推進チーム ヘッド　小谷 実可子

※2022年度は登壇者のスケジュールの都合により、2023年4月に開催

アスリートの育成・支援

選手強化、強化スタッフの育成・支援

選手強化中長期戦略プロジェクト

JOC Vision 2064と中期計画に基づき、ひとりでも多くの「憧れられるアスリートの育成」をおこなうため、本プロジェクトでは、３つのワーキンググループを設置し活動しております。①「アスリートワーキング」では、トップアスリートの更なる活躍及びジュニア期から一貫した成長環境や体系的に学べる制度づくり等、②「指導者ワーキング」では、コーチ等の継続的な育成と安定した指導体制の整備等、③「データ＆テクノロジーワーキング」では、競技力向上のための先端技術及びデータ活用の推進検討等、各分野での現状把握や課題抽出等もおこない様々な検討しております。今後も選手や指導者等のヒアリングもおこない、更なる発展的なプロジェクトとなるよう活動いたします。

競技力向上事業（令和４年度実績）

オリンピック実施競技団体等のオリンピック強化指定選手・ナショナルチーム等を中心としたトップレベルにある選手の強化を図るために国内外における強化合宿、国外で開催される競技大会へのチーム派遣等を実施しております。また、次々回のオリンピックで活躍が期待できる選手の育成・強化事業やＤＸを活用した新たな選手強化活動を行う事業を実施しております。

◆選手強化活動事業　52団体　893事業
◆次世代アスリート育成強化事業　37団体　490事業
◆新しい生活様式での選手強化活動事業　29団体　48事業
◆コーチ力強化事業　18団体　68事業
◆感染症対策事業　44団体　245事業

コーチ等設置事業（令和４年度実績）

オリンピック競技大会等の国際総合競技大会での成果を上げるべく、また長期一貫の強化対策に基づきアスリートの育成・強化のために、本会ならびに本会加盟オリンピック実施競技団体に対し、ハイパフォーマンスディレクター、ナショナルヘッドコーチ、ナショナルチームコーチ、メディカルスタッフ、情報科学スタッフ等を設置しております。

◆ハイパフォーマンスディレクター等の設置　45名
◆スタッフ等の設置　97名
◆コーチ等の設置　238名

スタッフ会議（コーチ会議、情報・医・科学合同ミーティング）等、各競技におけるコーチ等の相互研修・情報交換等を通じて指導力の向上と指導体制の充実を図るため、開催しております。JOCの選手強化本部基本方針を各NFの強化責任者をはじめ強化スタッフ（コーチ、メディカル、マネジメント等）に周知を図るとともに各NFが国際競技力向上に向けて主体的な取り組みができるよう指導しながら、競技間連携を推進しております。

会議名	日時	場所	参加者数
令和３年度 コーチ会議	2021年12月24日	オンライン	約330名
令和４年度 コーチ会議	2022年12月23日	オンライン	約350名

民間スポーツ振興費等補助事業（令和４年度実績）

日韓両国の親善・友好を図るとともに日本選手の競技力向上を図るため、トップレベルの選手による日本・韓国での合同合宿及び交流協議会を実施しております。また、国際競技大会におけるわが国のプレゼンスを日本代表選手の活躍および競技環境を向上できるよう、優秀かつ公正な判定の能力を有する日本人の国際審判員等の養成を図っております。

◆日韓スポーツ交流　２競技４事業
◆国際審判等養成プログラム事業　21競技64事業

将来性を有する選手の発掘及び育成事業

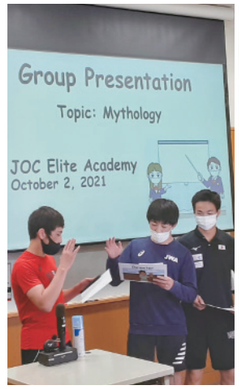
●JOCエリートアカデミー

味の素NTCをはじめとするハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）に備わる機能を最大限に活用して、JOCとNFが一体となって全国から優れた素質を有するジュニア競技者を発掘し、NFの持つ一貫指導システムのもと将来オリンピックをはじめとする国際競技大会にて活躍できるトップアスリートを育てています。
また、地域の教育機関と連携を図りながら、人間力や知的能力を伸ばしていくことにより、将来、スポーツ界はもちろん、社会の発展に貢献できる人材を育てることを目指しています。2022年4月現在、レスリング、卓球、フェンシング、ライフル射撃、ボートおよびアーチェリーの6競技で、中学1年生から高校3年生までを対象に実施しています。

〈活動内容〉

味の素NTCを中心とした環境の中で「考える力」を中核として「競技力」「知的能力」「生活力」をバランスよく向上させることが必要であると考え、以下のようなプログラムを実施しています。

◆HPSCの機能を活用し、各競技団体の一貫指導体制にもとづいたトップレベル専任の指導者による競技力向上プログラム
◆論理的な思考や表現を身に付けるための言語教育プログラム
◆日本代表選手として海外で活躍できるようにするための語学教育プログラム
◆基本的な学力の定着を図るための学習（補習）プログラム
◆「チーム・エリートアカデミー」の一員であることの意識を高めるための野外活動プログラム
◆スポーツの意義や価値等を考えるためのスポーツ教育プログラム



●オリンピック有望選手を対象に研修会

「JOCジュニアオリンピックカップ」等において優秀な成績を収め、かつ将来、オリンピック競技大会や世界選手権大会等において活躍できる選手を「オリンピック有望選手」として認定しております。一堂に会し実施する研修会は、JOC選手強化本部テーマである「人間力なくして競技力向上なし」のもと、他競技選手・指導者との交流を通じ、世界に通用するアスリートを育成するとともに、さらなる競技力向上につなげることを目指すものです。

令和４年度
開催日：2022年11月19日～20日
開催場所：味の素ナショナルトレーニングセンター
　　国立競技場
　　オリンピックミュージアム

スポーツ教室・大会、スポーツ指導者の養成・活用事業

●JOCキャリアアカデミー

日本のトップアスリートのキャリアを支援

JOCキャリアアカデミー事業はアスリートが競技引退後の不安を払拭し、競技に集中して更なる競技力向上が図れるよう支援を行うことを主な目的としてスタートいたしました。本事業は、3つの柱❶研修事業、❷アスナビ、❸アスナビNEXTを中心に活動しております。

❶ 教育・研修　オンラインスタイルを交えて

アスリートが自分について深く考えるための「自己分析」や「目標設定」、チームメイトや自分を支えてくれる周囲への共感力を高めるための「チームビルディング」、等各競技団体の課題やニーズに応じた研修を実施しています。また、先輩アスリートの講話に基づき、現役選手やコーチ・スタッフなどの参加者が語り合う「キャリアワークショップ」も開催しています。

❷ トップアスリート就職支援ナビゲーション　「アスナビ」

「アスナビ」はJOCが行う無料職業紹介事業として2010年より開始いたしました。就職による生活の安定や、仕事を通して社会人基礎力を身に着けられるアスリートにとっての「Win」と、組織の一体感、エンゲージメントの向上を狙いとしてアスリートの雇用を検討する企業の「Win」をマッチングによって成立。双方の「Win―Winの関係」を築いております。各経済団体のご支援を頂きながら、アスリートと企業を引き合わせるアスナビ説明会を年10回程度実施しています。（就職実績2023年3月現在　219社・団体367名）

❸「アスナビNEXT」

アスリートが引退し、次のステージへスムーズに移行するための支援を行う制度です。

現役のうちからキャリアデザイン力を身につけるためのセミナー開催や、アセスメントツールを活用した個別カウンセリングなど、現役時代の経験・知識、競技生活で培われたスキルが、次のキャリアでも活かせるよう、支援しております。

●JOCナショナルコーチアカデミー

「JOCナショナルコーチアカデミー」は令和4年に国が策定した「第3期スポーツ基本計画」において、「各競技種目のトップコーチ等を対象とした演習・講義等により、「コーチング」「マネジメント」「コミュニケーション」等のカリキュラムやケースメソッドを通して経験や知見を交換し合える環境を作ることで、オリンピックを始めとする大規模国際競技大会に派遣するコーチ・スタッフの更なる資質向上を図る事業」として説明されています。そして、本事業の理念の理解増進や他組織の指導者養成事業との連携等を進めるとともに、質の高い指導者の養成を支援することが明記されました。

JOCでは、オリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍できる選手を育成・指導する、ワールドクラスのコーチおよび各種スタッフの養成を目的に、JOCが認定するナショナルヘッドコーチ・ナショナルチームコーチや各競技団体の強化スタッフ等を対象に実施。プログラムは、受講者、講師間の双方向による情報交換を主体に、コーチングに必要な知識の他、ディベート実習、プレゼンテーション実習、戦略的コミュニケーション等で構成。修了者に対するフォローアップも実施しています。

〈活動内容〉

◆コンセプト

elite
日本の代表としての品性・資質を兼ね備えた真のトップコーチを育成する。

professional
職業観・倫理観・社会的責任において、専門家としての誇りを持つコーチを養成する。

global
日本としての戦い方を追求するとともに、「国際基準」を踏まえた戦略、強化指導を行うことができ国際舞台で活躍できるコーチを育成する。

interactive
知識や情報の一方通行ではなく、受講者と講師、受講者間の双方向による情報交換を主体とする。また指導現場において選手および指導者間との双方向を意識できる指導者を養成する。

TEAM JAPAN
競技の枠を超えた交流・連携を通し、日本スポーツ界の発展を目指す。

◆これまでの実績（2007年度～2022年度）

615名（正規440名、特別移行97名、外国籍78名）

参加競技：陸上競技、水泳、サッカー、スキー、テニス、ローイング、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、スケート、アイスホッケー、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、卓球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、ライフル射撃、近代五種、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、クレー射撃、ボブスレー、リュージュ、スケルトン、野球、カーリング、トライアスロン、ゴルフ、テコンドー、バイアスロン、ブレイキン、サーフィン、スケートボード

●TEAM JAPAN（日本代表選手団）監督・コーチ等における修了者割合

	ロンドン(2012)		リオ(2016)		東京(2020+1)	
	NCA修了者数	全体の割合	NCA修了者数	全体の割合	NCA修了者数	全体の割合
（参考）チームリーダー	2	25.0%	2	16.7%	4/15	26.7%
監督	14	50.0%	18	46.2%	29/54	53.7%
コーチ	19	17.9%	32	29.6%	75/219	34.2%
（参考）総務	2	14.3%	4	17.4%	7/46	15.2%
（参考）技術スタッフ	0	0.0%	1	20.0%	3/28	10.7%
監督・コーチ割合	33/134名	24.6%	50/147名	34.0%	106/273名	38.8%

	ソチ(2014)		平昌(2018)		北京(2022)	
	NCA修了者数	全体の割合	NCA修了者数	全体の割合	NCA修了者数	全体の割合
（参考）チームリーダー	0	0%	1	33.3%	1	33.3%
監督	1	7.7%	5	45.5%	4	80.0%
コーチ	11	17.7%	16	23.9%	27	50.0%
（参考）総務	1	20%	0	0%	0	0%
（参考）技術スタッフ	0	0%	0	0%	0	0%
監督・コーチ割合	12/75名	16.0%	21/78名	26.9%	31/59名	52.5%

国際競技力向上に関わる情報提供事業

パリ2024対策プロジェクト、ミラノ・コルティナ2026対策プロジェクト及び情報・医・科学サポートを通じて国際競技力向上に関わる方針、戦略、戦術、施策等の情報をスポーツ関係者に提供することにより各NFの選手育成強化戦略を支援しました。

アンチ・ドーピング推進支援事業

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）並びに日本スポーツフェアネス推進機構（J-Fairness）と連携し、アスリートや強化スタッフ等に対してアンチ・ドーピングの教育および啓発活動を実施しています。特に国際総合競技大会へ派遣する候補選手に対しては、派遣手続きの機会を活用し、アンチ・ドーピング教育を積極的に取り組んでいます。

JOCエリートアカデミーでのアンチ・ドーピング研修（JADA協力）

スポーツ指導者海外研修事業
（令和４年度実績：８名）

新進気鋭の若手指導者をスポーツ指導者海外研修員として海外に派遣し、その専門とする競技水準の向上に関する具体的な方法について研修させるとともに、海外の選手強化支援、指導者養成の実態について調査、研究に当たらせ、将来わが国のスポーツ界を担う指導者を育成しています。

ナショナルトレーニングセンター管理運営事業

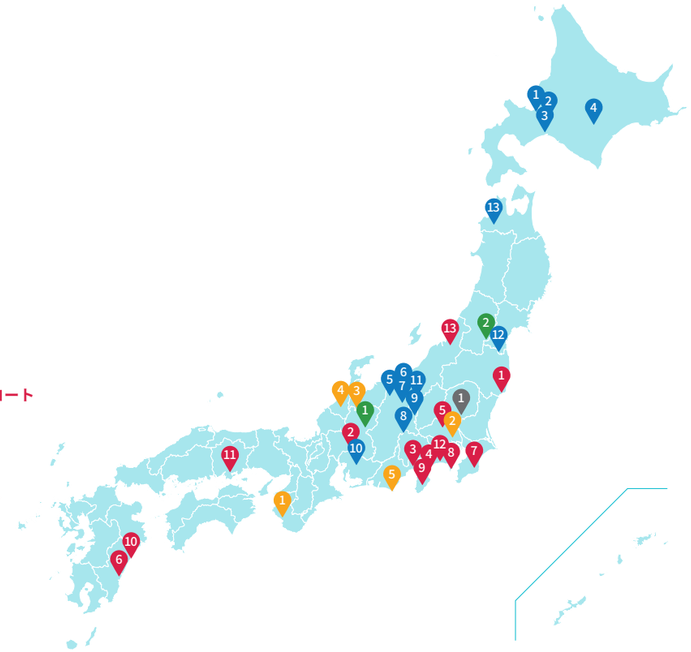
味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素NTC）は2008年に東京都北区西が丘地区に建設されたわが国初のトップアスリート専用トレーニング施設です。JOCおよびJOC加盟競技団体に所属するアスリートやスタッフ等が利用しています。また、2019年には新たなトレーニング拠点の構築を目的に全館バリアフリー設計の屋内トレーニングセンター・イーストが竣工されました。これにより、現在東京都北区西が丘地区には、国立スポーツ科学センター（JISS）を含め16競技19種別の専用練習場が設置されています。
すべての施設においてオリンピック・パラリンピック競技との共同利用による運用を行っており、トレーニング方法、指導方法等のさまざまな相乗効果を通じて、わが国の国際競技力向上に貢献しています。

拠点ネットワーク推進事業

国が指定しているナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点（競技別NTC）について、トレーニングや医・科学・情報サポートが各競技特性に合わせて効果的に実施されるよう、環境整備や体制構築に対するコンサルティング活動を行っています。また、各地に設置されている競技別NTCが他競技の情報収集や競技間連携を円滑に行えるよう、「競技別NTC合同ミーティング」や、「競技別NTCマネジメントミーティング」を開催し、国内外のスポーツの動向やNTCとしての取り組み等、選手強化に役立つ最新情報を広く共有しています。

ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点

味の素ナショナルトレーニングセンターでは対応できない、「冬季競技」、「海洋・水辺系競技」、「屋外系競技」、「高地トレーニング」等について、国は国内の既存施設をナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点に指定しています。（2023年3月時点でオリンピック競技32施設、高地トレーニング施設2施設）



1. **Jヴィレッジ**
   サッカー
2. **川崎重工ホッケースタジアム**
   ホッケー
3. **御殿場市馬術・スポーツセンター**
   馬術
4. **神奈川県立伊勢原射撃場**
   射撃／クレー射撃
5. **熊谷スポーツ文化公園**
   ラグビーフットボール
6. **フェニックス・シーガイア・リゾート**
   ゴルフ
7. **リソルの森**
   近代五種
8. **川崎市港湾振興会館（川崎マリエン）ビーチバレーコート**
   バレーボール／ビーチバレーボール
9. **日本サイクルスポーツセンターおよび JKA250**
   自転車
10. **フェニックス・シーガイア・リゾートおよび周辺エリア**
    トライアスロン
11. **ライト BMX パーク**
    自転車／ BMX フリースタイル
12. **葛飾区東金町運動場スポーツクライミングセンター**
    スポーツクライミング
13. **村上市スケートパーク**
    スケートボード

1. **和歌山マリーナ（ディンギーマリーナ）**
   セーリング
2. **戸田公園漕艇場および国立戸田艇庫**
   ローイング
3. **富山市スポーツ・カヌーセンター**
   カヌー／スラローム
4. **木場潟カヌー競技場**
   カヌー／スプリント
5. **静波サーフスタジアム PerfectSwell®**
   サーフィン

1. **札幌市ジャンプ競技場（大倉山、宮の森）**
   スキー／ジャンプ
2. **西岡バイアスロン競技場**
   バイアスロン
3. **白鳥王子アイスアリーナ（苫小牧市白鳥アリーナ）**
   アイスホッケー
4. **明治北海道十勝オーバル（帯広の森屋内スピードスケート場）**
   スケート／スピードスケート
5. **白馬ジャンプ競技場および白馬クロスカントリー競技場**
   スキー／ノルディック複合
6. **長野市ボブスレー・リュージュパーク「スパイラル」**
   ボブスレー・リュージュ
7. **長野市オリンピック記念アリーナ「エムウェーブ」**
   スケート／スピードスケート
8. **帝産アイススケートトレーニングセンター**
   スケート／ショートトラック
9. **軽井沢風越公園カーリングホール（軽井沢アイスパーク）**
   カーリング
10. **関空アイスアリーナ**
    スケート／フィギュアスケート
11. **管平高原パインビークスキー場**
    スキー／アルペン、スキー／スノーボード（パラレル大回転）
12. **東北クエスト**
    スキー／フリースタイル（スロープスタイル・ビッグエア）
    スキー／スノーボード（スロープスタイル・ビッグエア）
13. **青森スプリング・スキーリゾート**
    スキー／フリースタイル（ハーフパイプ）
    スキー／スノーボード（ハーフパイプ）

1. **飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア**
   高地トレーニング
2. **蔵王坊平アスリートヴィレッジ**
   高地トレーニング

1. **日環アリーナ栃木屋内水泳場**
   水泳／飛込

インテグリティ教育事業

日本を代表するアスリートや指導者としての資質を高め、自らの価値を守る知識と手段を身に付けられるよう様々な研修プログラムを実施します。また、アスリートアプリを活用し最新のスポーツ関連ニュースやインテグリティ等の情報提供をおこないます。JOCとNFが連携し、役割を分担しながら運営を進めています。今後も、関係ステークホルダーや他団体のご意見等も踏まえながら、引き続きインテグリティ教育事業の在り方等について検討していきます。

アントラージュへの教育
（ジュニアアスリート保護者向けセミナー）

アスリートのアントラージュとは、アスリートを取り巻くすべての人々を指します。例えばマネージャー、代理人、コーチ（教員含む）、トレーナー、医療スタッフ、科学者、NF、スポンサー、弁護士や家族も含まれます。JOCでは、アスリートの年代に合わせて起こりうる課題への対応および危機管理方法の教育を行い、アスリート育成の周辺環境を整える活動も行っています。
ジュニアアスリート保護者向けセミナーは、ジュニア期のアスリート（10歳～18歳）の保護者を対象に開催。家庭で多くの時間を共有し、大きな影響力を持つと考えられる保護者が、ジュニアアスリートとの関わり方、助言の仕方を学ぶことによって、親子がスポーツを通じて実りある人生を実現する可能性を高め、競技力の高いアスリートの育成を目指しています。

ジュニアアスリート保護者向けセミナー実施日

2021年度
第1回　期日：2021年5月15日（土）　場所：オンライン
第2回　期日：2022年3月20日（日）　場所：オンライン

2022年度
第1回　期日：2022年11月20日（日）
　　場所：オンライン
第2回　期日：2022年12月17日（土）
　　場所：オンライン
第3回　期日：2023年3月18日（土）
　　場所：オンライン

〈主な内容〉
オリンピズムについて、ジュニアアスリートのコンディショニング、トップアスリートとして成長するために保護者ができること（スポーツ心理学）、保護者が知っておきたいSNSの危険性と有効性、勝てるカラダを作る栄養学、パネルディスカッション　他

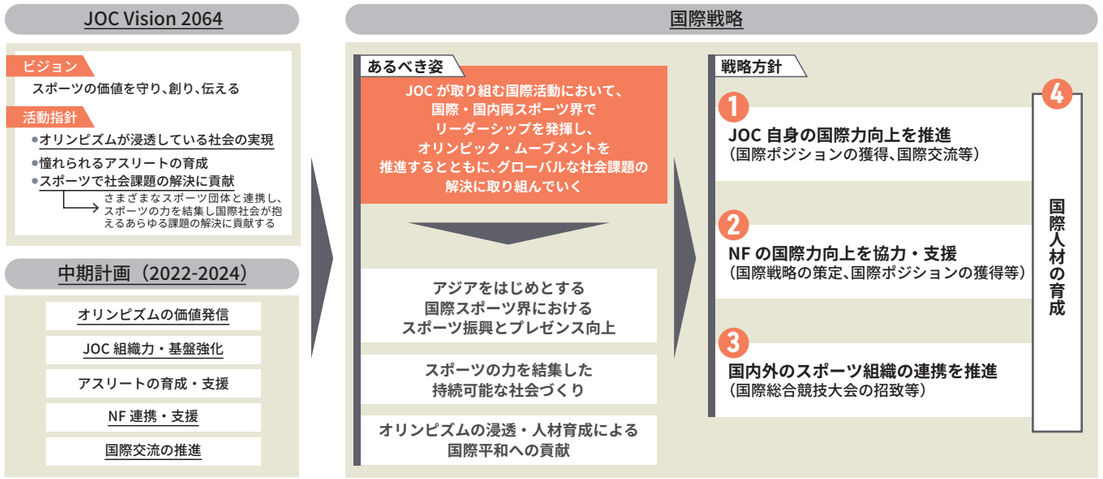
国際交流の推進

国際戦略の基本方針について

過去JOCでは、ゴールドプランや同 STAGE II を発表し、競技力向上につながる国際力の強化のための具体的な施策を提示。自国開催である東京2020大会では、金メダル数は世界３位となる27個を獲得し、競技力向上に向けた国際力の強化は一定の成果を成し遂げました。2021年「JOC Vision 2064」で長期的に追い求める“ありたい姿”である「スポーツで社会課題の解決に貢献」等を示し、翌2022年には「JOC中期計画2022-2024」を発表し、国際交流の推進やJOC組織力・基盤強化などの方針を示しました。
上記を踏まえ、2022年度の国際委員会において、ワーキンググループを設置して議論を行い、今後の国際戦略のあるべき姿や、実現に向けた戦略方針に関する基本方針をまとめました。

国際戦略の基本方針

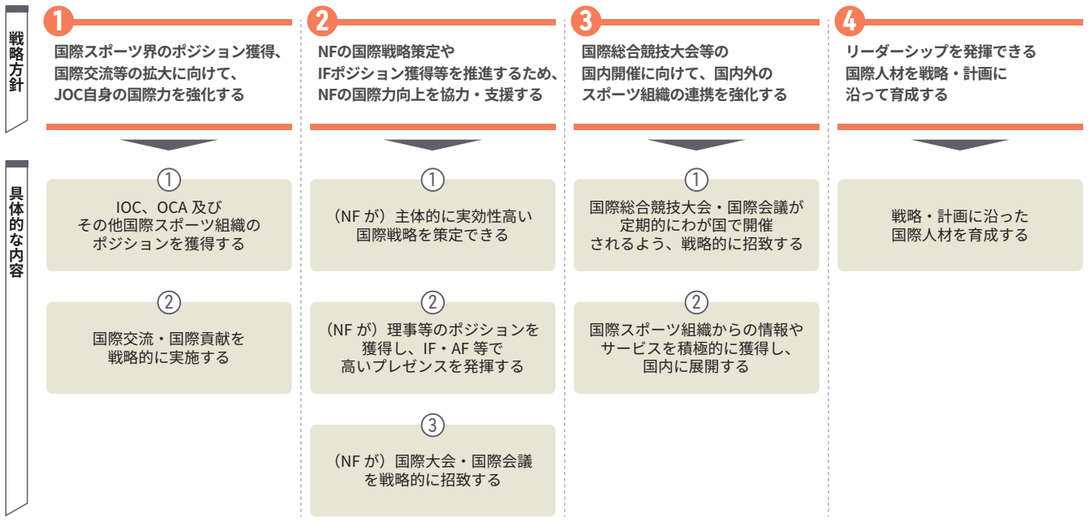
① 国際戦略の位置づけ



※下線部は国際戦略に特に関係の深い部分

Copyright © Japanese Olympic Committee All Rights Reserved.

② 戦略方針に沿った主な内容



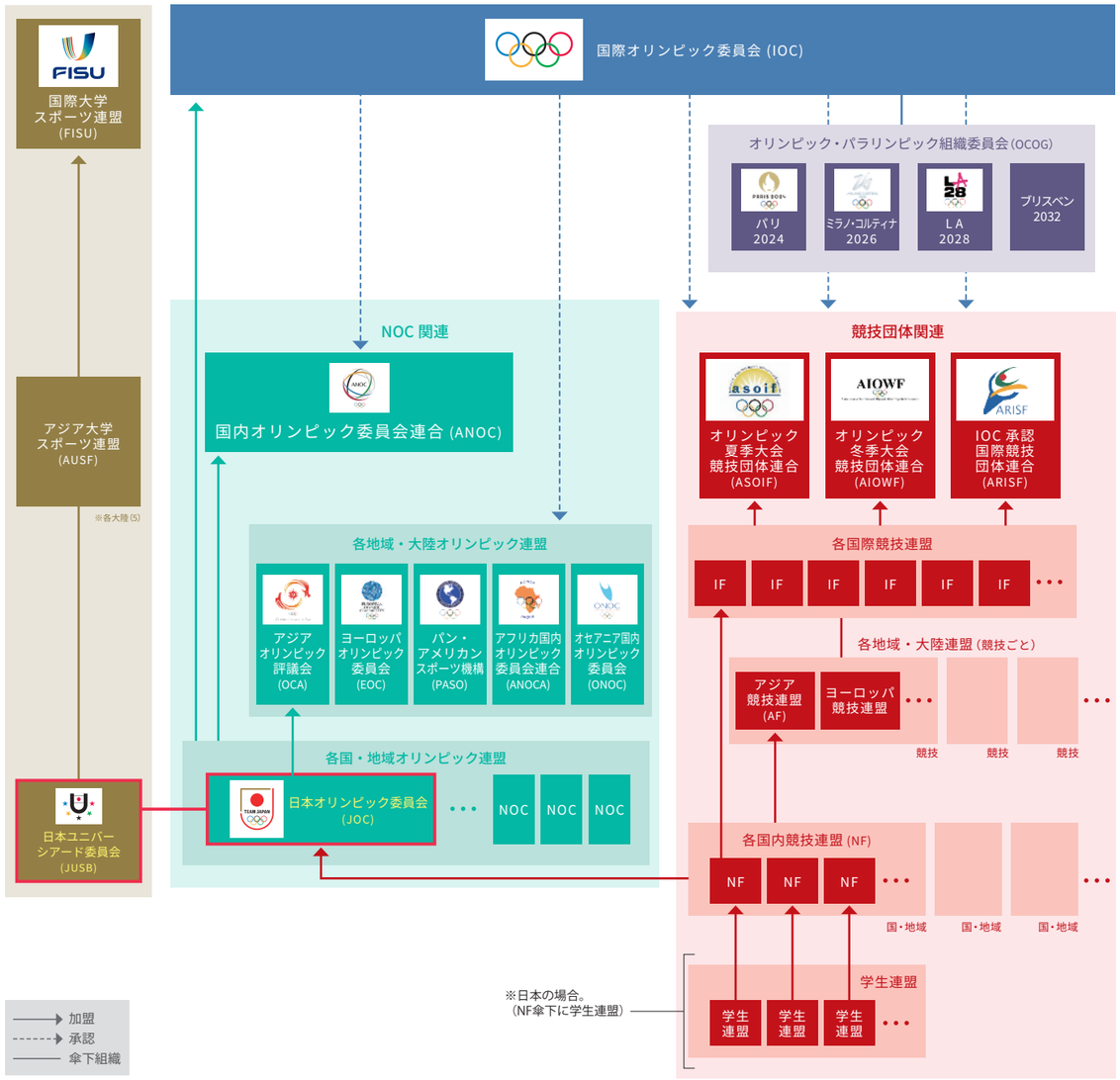
Copyright © Japanese Olympic Committee All Rights Reserved.

国際連携

●国際組織説明図

JOCは、国際オリンピック委員会（IOC）、国内オリンピック委員会連合（ANOC）、アジアオリンピック評議会（OCA）、国際大学スポーツ連盟（FISU）等の国際スポーツ統括組織からの情報収集、パートナーNOCを始めとする各国・地域オリンピック委員会（NOC）との関係強化に努めるとともに、国際貢献、人脈形成、人材育成等にも取り組んでおり、そのことで国際力強化、日本のプレゼンス向上につなげています。

国際スポーツ組織関係概要図



① 国際スポーツ組織との関係強化並びに人材育成

国際スポーツ組織の日本関係者就任一覧

国際スポーツ組織における日本関係者　役員・委員就任状況

2022年10月20日現在

組織	委員会等	役職	氏名	本会役職等
IOC	IOC委員	—	山下 泰裕	会長
	アスリートアントラージュ委員会	委員		
	IOC委員	—	渡辺 守成	理事
	LA2028 調整委員会	委員		
	ジェンダーイクオリティ、ダイバーシティとインクルージョン委員会	委員		
	IOC委員	—	太田 雄貴	理事
	アスリート委員会	委員		
	ジェンダーイクオリティ、ダイバーシティとインクルージョン委員会	委員		
		委員	小谷 実可子	常務理事
	アスリート委員会	リエゾン		
	オリンピック教育委員会	委員	キャロラインベントン	—
	収益とコマーシャルパートナーシップ委員会	委員	田中 ウルヴェ 京	—
	オリンピックプログラム委員会	委員	荒木田 裕子	国際委員会委員
	オリンピズム365委員会	委員	有森 裕子	—
ANOC（2022-2026）	アスリート委員会	委員	小谷 実可子	常務理事

組織	委員会等	役職	氏名	本会役職等
OCA（2019-2023）	理事会	副会長	竹田 恆和	名誉委員
	アスリート委員会	委員長	小谷 実可子	常務理事
	国際関係委員会	委員	齋藤 泰雄	名誉委員
	メディア委員会	委員	竹内 浩	—
	医事委員会	委員	赤間 高雄	アンチドーピング部会員
	医事（アンチドーピング）委員会	委員	植木 真琴	—
	規則委員会	副委員長	小倉 文雄	—
	スポーツ委員会	委員	村里 敏彰	—
	スポーツと環境委員会	委員	中森 康弘	強化部選任部長
	ジェンダー公平性委員会	委員	山口 香	—
EAOC（2019-2023）	評議会	評議員	横井 裕	常務理事
	医事委員会	委員	赤間 高雄	アンチドーピング部会員
	ルールとスポーツ委員会	委員	川廷 尚弘	国際委員会委員
WOA（2021-2024）	世界オリンピアンズ協会	副会長	小谷 実可子	常務理事
FISU（2019-2023）	理事会	理事	五十嵐 久人	JUSB副委員長
	国際医事委員会	委員	渡部 厚一	アンチドーピング部会員
	国際管理委員会	委員	石川 宣治	国際部長
AUSF（2018-2022）	理事会	理事	五十嵐 久人	JUSB副委員長

※原則、各組織の名簿順にて記載

国際スポーツ組織における日本人の役員就任状況（IF）

2023年3月10日現在

No.	IF		IF本部所在地	氏名	IF役職
1	体操	FIG	スイス/ローザンヌ	渡辺 守成	会長
2	スキー	FIS	スイス/オーバーホーフェン・アム・トゥナジー	村里 敏彰	副会長
3	卓球	ITTF	スイス/ローザンヌ	前原 正浩	執行副会長
4	トライアスロン	ITU	スイス/ローザンヌ	大塚 眞一郎	副会長
5	山岳・スポーツクライミング	IFSC	イタリア/トリノ	小日向 徹	副会長
6	陸上競技	IAAF	モナコ	横川 浩	理事
7	水泳	FINA	スイス/ローザンヌ	鈴木 大地	理事
8	サッカー	FIFA	スイス/チューリヒ	田嶋 幸三	理事
9	テニス	ITF	イギリス/ロンドン	川廷 尚弘	理事
10	ローイング	FISA	スイス/ローザンヌ	細淵 雅邦	理事
11	ホッケー	FIH	スイス/ローザンヌ	安西 浩哉	理事
12				小倉 文雄	理事
13	バレーボール	FIVB	スイス/ローザンヌ	嶋岡 健治	理事
14				佐伯 祐二	理事
15	体操	FIG	スイス/ローザンヌ	北川 タミー	理事
16	バスケットボール	FIBA	スイス/ジュネーブ	三屋 裕子	理事
17	スケート	ISU	スイス/ローザンヌ	松村 達郎	理事
18	セーリング	ISAF	イギリス/サウザンプトン	大谷 たかを	理事
19	ウェイトリフティング	IWF	スイス/ローザンヌ	三宅 宏美	理事
20	ハンドボール	IHF	スイス/バーゼル	渡邊 佳英	理事（アジア代表）
21	フェンシング	FIE	スイス/ローザンヌ	太田 雄貴	理事
22	柔道	IJF	スイス/ローザンヌ	山下 泰裕	理事
23				上村 春樹	理事
24	バドミントン	BWF	マレーシア/クアラルンプール	銭谷 欽治	理事
25	ライフル射撃	ISSF	ドイツ/ミュンヘン	松丸 喜一郎	理事
26	ラグビーフットボール	WR	アイルランド/ダブリン	岩渕 健輔	理事（日本代表）
27				齋木 尚子	理事（日本代表）
28	カヌー	ICF	スイス/ローザンヌ	古谷 利彦	理事
29	アーチェリー	WA	スイス/ローザンヌ	秦 浩太郎	理事
30	カーリング	WCF	スコットランド/パース	小川 豊和	理事
31	ゴルフ	IGF	スイス/ローザンヌ	平山 伸子	理事
32	サーフィン	ISA	アメリカ合衆国/カリフォルニア	井本 公文	理事

スポーツ国際展開基盤形成事業・IF等役員ポスト獲得支援事業ほか（スポーツ庁からの委託）

国際的な場において、日本代表選手が十分に力を発揮し活躍できるようにするためには、国際競技連盟（IF）等における日本人役員の数を増やすことも重要です。スポーツ界におけるわが国の発言力を高めるとともに、国際的なルール作りなどの決定過程に積極的に参画していくため、スポーツ庁の委託を受け、国内競技団体（NF）等の優れた人材がIF等の役員ポストを獲得するため、各NFに対して国際競技大会・国際会議の機会を活用した選挙活動に必要なサポート等を実施し、IF等の役員ポスト獲得を支援しています。他にも、NFを対象とした国際戦略の重要性を周知するセミナーを開催するとともに、役員候補者等を対象に海外コンサルタント等によるIF役員選挙対策に関するセミナーや個別コンサルテーションを実施しています。

国内競技団体（NF）向け国際戦略セミナー

JOC/NF国際フォーラム

JOCとNFが一体となったTEAM JAPANとしての国際力強化のため、原則、年に一度開催。JOCが推進する国際関係の最新情報を各NFに提供するとともに、国際的に求められる役割を再認識し、自国開催のオリンピックが終わった以降も日本のNOC、NFが影響力・発言力をもちつづけ、貢献しつづけていくための模索を各組織と協議することを目指しています。

●R3年度

日時：2022年3月14日（月）15:00～17:30
方法：オンライン形式
テーマ：スポーツを通じたSDGｓの実践

横井委員長による開会挨拶

国際人養成アカデミー

① アカデミー概要

ねらいと目的　本アカデミーは、国内スポーツ組織が国際スポーツ組織との関係を強化することへの支援を目的にした、人材の国際力向上を図る人材育成事業です。本事業を通じて、所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織等の政策決定過程に関与できる人材、国際的な折衝において活躍できる人材、あるいは国際連携・貢献を実践できる人材の育成を目指しています。

実施形式　3日間（金・土・日）の講義および実習を8週間＝合計24日間に渡り開催。

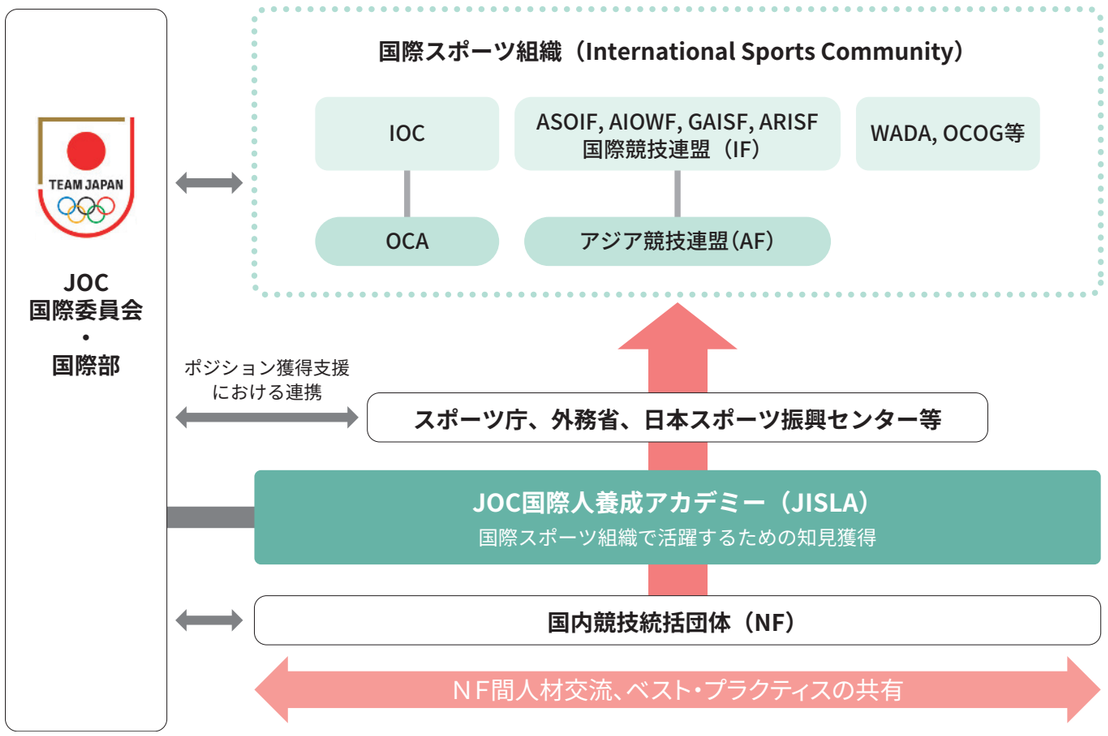
実施場所　味の素ナショナルトレーニングセンター、Japan Sport Olympic Square 他
※令和4（2022）年度については、オンラインでも一部対応

対象者　(1) JOC、JOC加盟団体から推薦される下記の者
①将来JOC/NFを代表しIOC、IF/AF等の国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員、または国際競技大会のスポーツディレクター等として、その団体や組織の政策決定過程における活躍が期待できる者
②JOC/JOC加盟団体の国際的な実務関係者あるいは今後その可能性のある者
(2) その他JOCが認めた者

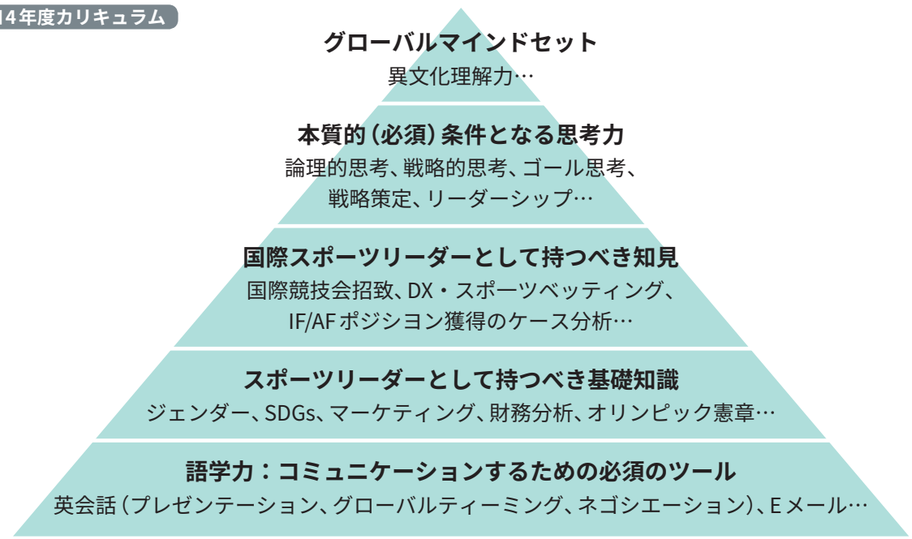
IF・AF 等国際スポーツ組織への人材輩出

期待される成果

- 国際大会の日本開催
- 国際会議・総会の開催
- 発言力の拡大・強化
- 情報収集
- 人脈の形成・拡大



令和4年度カリキュラム



講義を聞くだけでなく、自ら考えることを求められることが多い

アカデミーの運営や講義構成にアドバイスするスクールマスター

英語で学ぶ実践的な国際コミュニケーション演習

様々なスポーツ団体から受講者が集まっている

② JISLA Conference 2023

例年、アカデミーの過去修了者を対象にフォローアップ研修会を開催し、学びの機会、修了者のネットワーキングの機会を提供してきた（過去2年間はコロナウィルス感染拡大により開催を断念）。令和4年度は、開講より12年が経過し、修了生の総数は329名。これら修了生の期を跨いだネットワークの形成、相互の情報共有を促すことで、修了生個人の国際化に向けた動機付け、そして修了生を介したNFの国際化の動機付けにつなげる目的でJISLA Conferenceを実施しました。

③ 参加状況

アカデミーの受講者数（令和4年度終了時点）

開催年度	新規受講者数（人）	開催年度	新規受講者数（人）	開催年度	新規受講者数（人）
平成23年度	20人	平成27年度	27人	令和元年度	36人
平成24年度	21人	平成28年度	42人	令和2年度	33人
平成25年度	20人	平成29年度	25人	令和3年度	20人
平成26年度	27人	平成30年度	43人	令和4年度	28人
				合計	57団体・342人

パートナーNOC

役職員間の交流・意見交換、選手・コーチ間交流の促進、マーケティングプログラムやオリンピック・ムーブメント活動に関する情報交換等を目的に各国・地域の国内オリンピック委員会（NOC）とそれぞれパートナー協定を締結しております。

各NOCロゴマークはhttps://olympics.com/ioc/national-olympic-committeesに準じる

JOCパートナーシップ協定締結NOCs

50NOCと締結（2023年3月1日現在）

01. キューバ / Cuban Olympic Committee
2000年9月25日　シドニーにて締結

02. オーストリア / Austrian Olympic Committee
2000年9月27日　シドニーにて締結
2014年5月16日　東京にて再締結

03. アメリカ合衆国 / United States Olympic Committee
2002年2月5日　ソルトレークシティーにて締結
2011年4月22日　東京にて再締結

04. ドイツ / German Olympic Sports Confederation
2002年11月2日　ニュールンベルグにて締結
2006年11月16日　フランクフルトにて再締結

05. 中華人民共和国 / Chinese Olympic Committee
2003年4月1日　東京にて締結

06. リトアニア / National Olympic Committee of Lithuania
2004年4月14日　東京にて締結

07. 大韓民国 / Korean Sport & Olympic Committee
2004年8月25日　アテネにて締結

08. イギリス / British Olympic Association
2005年9月15日　ロンドンにて締結

09. ロシア連邦 / Russian Olympic Committee
2006年2月9日　トリノにて締結
2011年3月22日　ソチにて再締結
2019年9月5日　ウラジオストクにて再々締結

10. イタリア / Comitato Olimpico Nazionale Italiano
2006年2月13日　トリノにて締結

11. カナダ / Canadian Olympic Committee
2006年8月16日　東京にて締結

12. タイ / National Olympic Committee of Thailand
2006年12月4日　ドーハにて締結

13. スウェーデン / Swedish Olympic Committee
2007年9月1日　大阪にて締結
2014年10月10日　東京にて再締結

14. アイルランド / Olympic Council of Ireland
2008年2月13日　ダブリンにて締結

15. ブルガリア / Bulgarian Olympic Committee
2010年2月22日　バンクーバーにて締結

16. オーストラリア / Australian Olympic Committee Inc.
2010年2月24日　バンクーバーにて締結

17. チャイニーズ・タイペイ / Chinese Taipei Olympic Committee
2010年8月17日　シンガポールにて締結

18. ブラジル / Comitê Olímpico do Brasil
2010年8月18日　シンガポールにて締結

19. シンガポール / Singapore National Olympic Council
2010年8月19日　シンガポールにて締結

20. エジプト / Egyptian Olympic Committee
2010年8月20日　シンガポールにて締結

21. ニュージーランド / New Zealand Olympic Committee Inc.
2010年8月21日　シンガポールにて締結

22. ウクライナ / National Olympic Committee of Ukraine
2010年8月22日　シンガポールにて締結
2017年10月11日　東京にて再締結

23. ジョージア / Georgian National Olympic Committee
2010年9月10日　東京にて締結

24. ウズベキスタン / National Olympic Committee of the Republic of Uzbekistan
2010年9月29日　タシケントにて締結

25. ジャマイカ / Jamaica Olympic Association
2010年10月21日　アカプルコにて締結

26. クロアチア / Croatian Olympic Committee
2010年10月22日　アカプルコにて締結

27. バルバドス / The Barbados Olympic Association Inc.
2010年10月26日　バルバドス/セント・マイケルにて締結

28. ブータン / Bhutan Olympic Committee
2011年5月11日　ブータン/ティンプーにて締結

29. ハンガリー / Hungarian Olympic Committee
2011年8月26日　東京にて締結

30. パナマ / Comité Olímpico de Panamá
2013年12月6日　東京にて締結

31. フランス / Comité National Olympique et Sportif Français
2014年8月16日　南京にて締結

32. コスタリカ / Comité Olímpico Nacional de Costa Rica
2015年5月25日　東京にて締結

33. モンゴル / Mongolian National Olympic Committee
2015年9月1日　東京にて締結

34. オランダ / Nederlands Olympisch Comité* Nederlandse Sport Federatie
2016年2月13日　リレハンメルにて締結

35. ヨルダン / Jordan Olympic Committee
2016年8月5日　リオデジャネイロにて締結

36. スリランカ / National Olympic Committee Of Sri Lanka
2016年8月8日　リオデジャネイロにて締結

37. フィリピン / Philippine Olympic Committee
2016年8月15日　リオデジャネイロにて締結

38. グアテマラ / Comité Olímpico Guatemalteco
2016年8月17日　リオデジャネイロにて締結

39. ベルギー / Comité Olympique Et Interfédéral Belge
2016年10月12日　東京にて締結

40. スロバキア / Slovak Olympic and Sports Committee
2017年3月8日　東京にて締結

41. フィンランド / Finnish Olympic Committee
2017年3月22日　東京にて締結

42. スロベニア / Olympic Committee of Slovenia Association of Sports Federations
2018年2月11日　平昌にて締結

43. ポーランド / Polish Olympic Committee
2018年2月15日　平昌にて締結

44. セネガル / Comité National Olympique et Sportif Sénégalais
2018年3月16日　東京にて締結

45. ウルグアイ / Comité Olímpico Uruguayo
2018年10月10日　ブエノスアイレスにて締結

46. タジキスタン / Natinal Olympic Committee of the Republic of Tajikistan
2018年11月29日　東京にて締結

47. カタール / Qatar Olympic Committee
2019年10月17日　ドーハにて締結

48. クウェート / Kuwait Olympic Committee
2019年10月17日　ドーハにて締結

49. モンテネグロ / Montenegrin Olympic Committee
2019年11月27日　東京にて締結

50. ルーマニア / Romanian Olympic and Sports Committee
2021年8月5日　東京にて締結

■ 協定に基づく主な交流内容
- NOC役・職員間交流、意見交換等
- 選手、コーチ間交流の促進
- マーケティング（スポンサーシップ等）の協力
- オリンピックムーブメント活動に関する情報交換　等

JOC組織力・基盤強化

② 国際貢献事業

2021年度、2022年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から多くの事業が中止となりましたが、JOCでは、各関係団体、NF等の協力を得ながら各種国際貢献事業を執り行いました。
具体的にはNFや本会が国際的信頼度を高めるために実施する事業として、紛争等により自国で練習できない海外アスリートの受入事業や、発展途上国・地域へ日本人コーチを派遣し指導を行ったり、器材供与を行う事業などを実施しました。
また、東京大会後に、その後のパリ大会を目指し継続して日本国内でトレーニングをしている発展途上国・地域の選手に対しての支援もIOCオリンピック／ソリダリティー等を活用し、実施しました。

東京 2020 大会関係

●ジャパンハウス

第32回オリンピック競技大会(2020/東京)の大会期間中、日本オリンピックミュージアム（JOM）にJOC JAPAN HOUSE 2020を設置。今回は、JOMの魅力を紹介するとともに、パートナー及びゲスト、IOC委員、NOC会長・専務理事等を招き交流を図る予定でしたが、コロナ対策の影響により、来館対象者を国内居住者もしくは入国後14日を超えた方のみに限定し、ホスピタリティを目的とした飲食等の提供は見送りました。過去大会においてJOCは対面形式でのレセプションも開催していましたが、本大会においては、オンラインで「JOC HYBRID EVENT」として開催。自国開催のホストNOCとして、オリンピックファミリー・関係者との交流を図るため、「復興と東京2020」をテーマに、オンラインで参加者と東京・福島・札幌を繋ぎました。

山下会長とMCのクリスペプラー

相馬高校バレー部員の想い（福島）

ヤングアスリートトーク（復興支援視察団参加アスリート）

相馬高校太鼓部のパフォーマンス（福島）

YOSAKOIソーラン演舞（札幌）

復興に関するバッハIOC会長メッセージ

JOC マーケティングプログラム

マーケティングの役割

JOC マーケティングは、JOC Vision 2064 に向けた道しるべとなる中期計画に基づいた活動を支える財源を安定的に確保するために、重要な役割を占めています。
また、JOC Vision 2064に向けた活動を更に加速・拡大していくための原動力として構築した「TEAM JAPAN ブランド」を、新 JOC マーケティングの核として、ステークホルダーとより強固な連携・協力体制を築いていきます。これにより、マーケティングプログラムの価値向上を目指すとともに、TEAM JAPAN ブランドが目指すゴールである「よりよい社会づくり」にも貢献していきます。

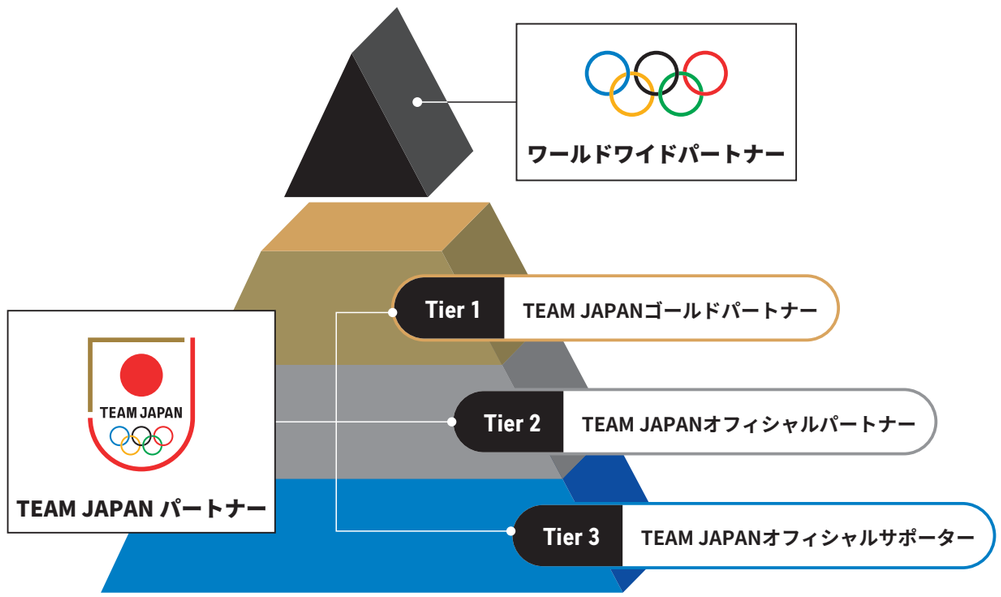
マーケティングプログラムの概要

●TEAM JAPAN パートナーシッププログラムの目的

資金、専門的なノウハウ、製品・サービスの提供等を通じて、TEAM JAPAN 及び JOCをサポートいただくプログラム。協賛企業に対しては、JOCが保有するエンブレムやスローガン等のマーク使用権、ホスピタリティサービス等を提供することに加え、選手強化、オリンピック・ムーブメント事業等で相互メリットを構築し、パートナーとの共同事業の積極的な推進により、真のパートナーシップを築きます。また、パートナーによるアクティベーション（権利行使）は、オリンピズムはもちろん、TEAM JAPANやアスリート、スポーツの価値を日本国中の人々に届ける手助けとなります。

●パートナーシッププログラムの構造

オリンピックマーケティングのパートナーシップ構造はIOCが管理するワールドワイドオリンピックパートナーと、NOCのパートナーやOCOGのパートナーの二重構造になっています。
TEAM JAPAN パートナーシッププログラムでは、Tier 1、Tier 2、Tier 3の3つの階層でパッケージを用意し、日本国内限定のパートナーを募集しています。（※権利行使ができる領域は日本国内となります。）



●主な権利内容

◆呼称の使用権
TEAM JAPAN ゴールドパートナー
オリンピック日本代表選手団「TEAM JAPAN」等

◆マーク類の使用権
TEAM JAPAN ブランド
JOC スローガン「がんばれ！ニッポン！」
JOC コミュニケーションマーク 等

◆選手肖像の使用権
TEAM JAPAN シンボルアスリート
TEAM JAPAN ネクストシンボルアスリート

◆契約カテゴリー商品／サービスのサプライ権
◆TEAM JAPAN 公式ライセンス商品等のプレミアム利用権
◆NF ジョイントマーケティングに関する権利
◆リコグニションに関する権利

◆関連素材の使用権
オリンピック関連の映像及び写真等
オリンピック日本代表選手団の映像及び写真
※ただし、Tier 1、Tier 2、Tier 3の3つの階層に応じて、活用可能な権利が異なります。

例：主なマーク等

TEAM JAPAN パートナー呼称

TEAM JAPAN パートナー呼称

RISING TOGETHER®
がんばれ!ニッポン!®

●パートナー企業一覧

The Worldwide Olympic Partners

airbnb　Alibaba　Allianz　Atos　BRIDGESTONE　Coca-Cola　蒙牛　Deloitte.
intel　OMEGA　Panasonic　P&G　SAMSUNG　TOYOTA　VISA

TEAM JAPAN Gold Partners

asics　ENEOS　東京海上日動　日本生命　三井不動産 MITSUI FUDOSAN

TEAM JAPAN Official Partners

AJINOMOTO　airweave　Times　Hisamitsu

TEAM JAPAN Official Supporters

インターブランドジャパン　ANA　東武タワースカイツリー　日本航空

2023 年 8 月末時点

●TEAM JAPAN ライセンシングプログラム

JOCが保有するマークを使用して商品化できる権利をJOCと契約した企業（ライセンシー）に提供し、TEAM JAPAN公式ライセンス商品として製造、販売するプログラムです。

TEAM JAPAN 公式ライセンス商品は、TEAM JAPAN と、TEAM JAPAN を応援する多くの人の思いをつなぐ最も身近な接点として展開しています。手軽に手に取り、身に着けていただくことで、これまで以上にトップアスリートを身近に感じていただけるよう、オンラインショップや既存店舗だけでなく、全国的に展開できることを目指しています。

TEAM JAPAN公式ライセンス商品

Special Edition

アスリートの緊張感と信念を直線で、躍動感と人々のつながりを曲線で表現したグラフィックエレメントとTEAM JAPANのスピリットを表現したタグラインを大胆にデザインしています。

定番シリーズ

TEAM JAPANエンブレムを象徴的に施した不変的なデザインとし、一般的な商品ラインナップとして展開していきます。

TEAM JAPAN応援グッズ

オリンピックの開催に合わせて、各大会のTEAM JAPANのコンセプトに沿ったデザインのグッズを展開していきます。

オンラインショップURL：
https://www.teamjapanshop.jp/

マーケティングで得た資金の使用用途

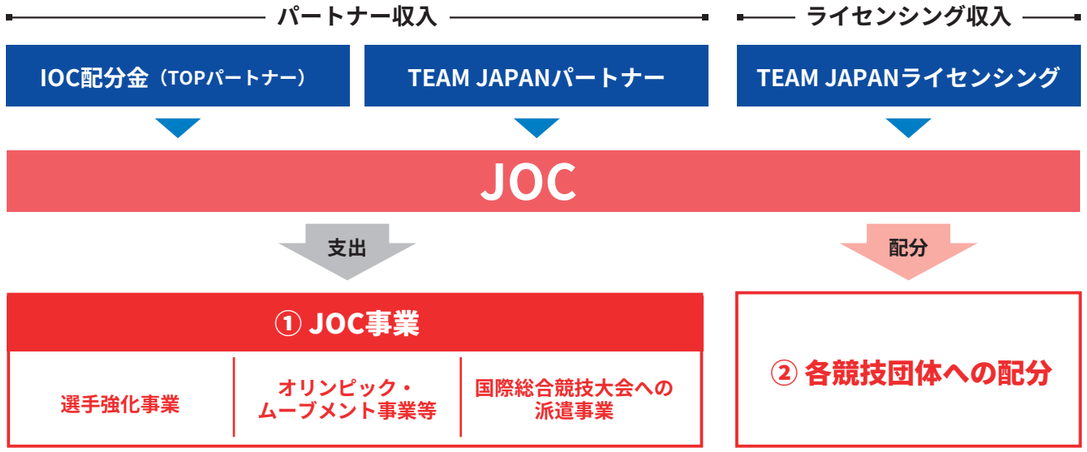
パートナーによる協賛や公式ライセンス商品の売り上げより得られるマーケティング収入は、大きく分けて1）JOC事業としての支出と2）各競技団体への配分に使われます。

1）JOC事業

選手強化事業（ナショナルトレーニングセンター使用料、若手アスリートの育成、指導者養成、アスリートのキャリアサポート等）、オリンピック・ムーブメント事業等（日本オリンピックミュージアムの管理運営、オリンピック教室等）、国際総合競技大会へのTEAM JAPAN（日本代表選手団）の派遣に活用しています。

2）各競技団体への配分

JOCに加盟する各競技団体の選手強化や大会派遣等にも活用されています。



知的財産の保護

●オリンピックに関する主な知的財産の一例

オリンピックに関するエンブレム、ロゴ、用語、名称をはじめとする知的財産は、日本国内では「商標法」、「不正競争防止法」、「著作権法」等により保護されています。

●オリンピック・JOCに関する主な知的財産の一例

オリンピックに関する主な知的財産には、オリンピックシンボル、大会エンブレム、大会名称、大会マスコット、ピクトグラム、大会モットー、オリンピックに関する用語、画像及び音声等があります。

これらはIOCが定めたオリンピック憲章に基づき、日本国内では、IOCとともにJOCが管理を担当し、その使用には、権利主体者の事前許諾が必要となります。

RISING TOGETHER®

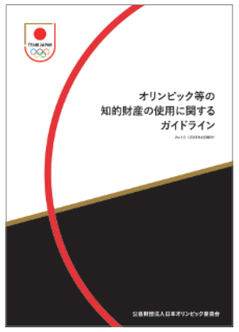
がんばれ!ニッポン!®

アンブッシュマーケティングの防止

IOC及びJOCのマーケティングプログラムは、オリンピックに関する商標やロゴをはじめとする知的財産の使用権を中心として構成されています。パートナー各社には、オリンピックをはじめとするTEAM JAPANの選手強化やオリンピック・ムーブメントの推進に必要となる多額の資金やノウハウを提供いただいており、その対価として、これらの知的財産の使用を許諾しています。

故意であるか否かを問わず、団体や個人が、権利者であるIOCやJOCの許諾無しにオリンピックシンボル等を無断使用することや、オリンピックのイメージを流用することは、アンブッシュマーケティングと呼ばれ、IOC及びJOCの知的財産権を侵害するばかりでなく、マーケティング収入の減収を招き、ひいては選手強化や各種事業等の開催にも重大な支障をきたす可能性があります。

JOCではこれらのアンブッシュマーケティングを未然に防ぐために、「オリンピック等の知的財産の使用に関するガイドライン」を発行しています。



オリンピック等の知的財産の使用に関するガイドライン

マーケティングガイドラインURL：
https://www.joc.or.jp/about/brand_protection/pdf/guidelines2023_06.pdf

JOC マーケティングの変遷

JOCは、各競技団体に登記登録する選手・役員の肖像の使用権を提供するマーケティングプログラム「がんばれ！ニッポン！キャンペーン」を1979年にスタートしました。これは、当時、アマチュアリズムの規定により禁止されていた、競技の成績によって得られた選手の名声等の商業的な利用を、JOCが「公の利益」のために選手・監督・コーチ等の肖像を預かり、協賛企業に使用権を提供することにより得られた収入を各競技団体に強化費として配分する、世界で初となる新しい形のスポーツマーケティングプログラムで、選手の育成・強化に大きな役割を果たしました。

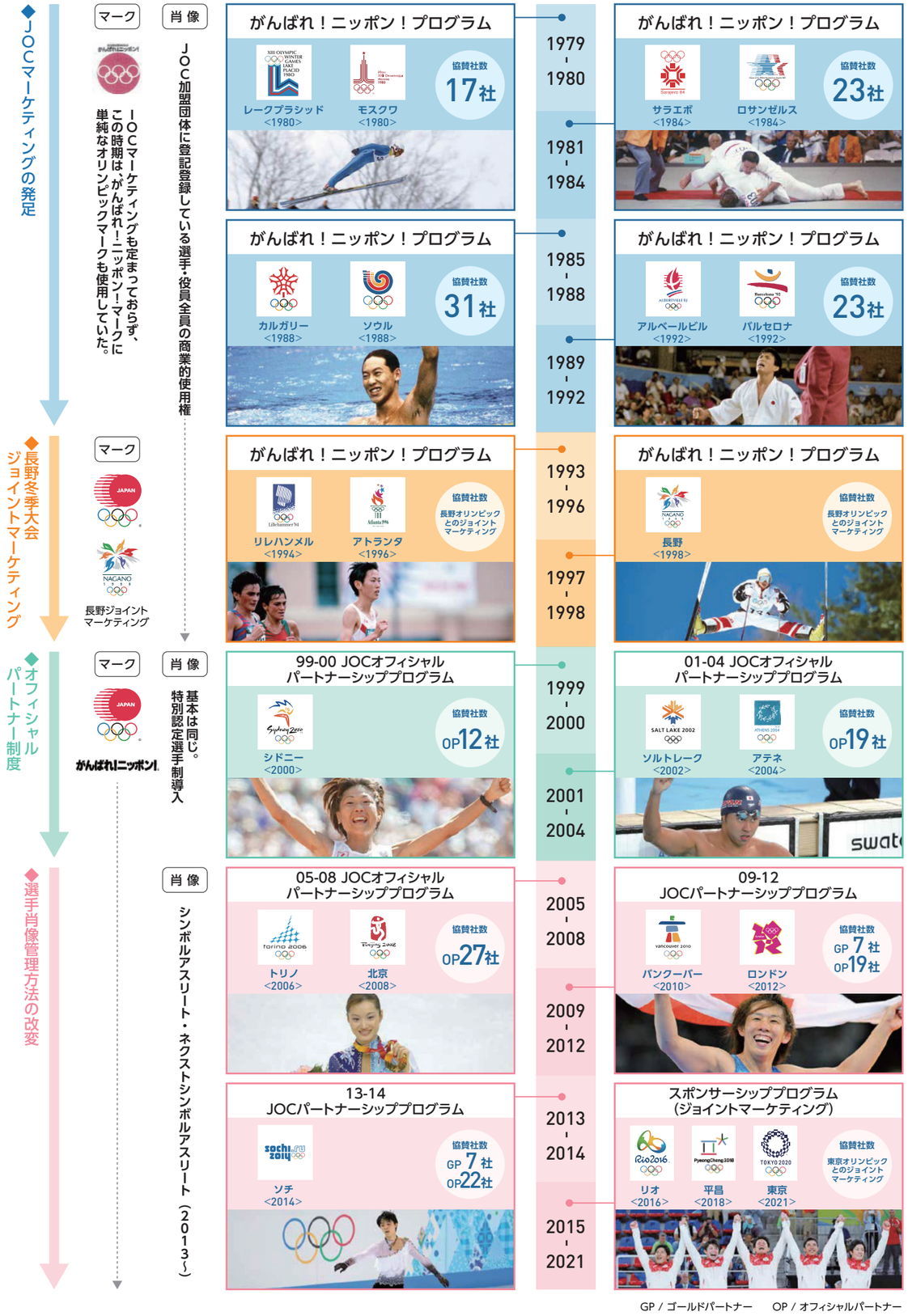
その後、JOCは、1998年の長野冬季オリンピックに向け、大会組織委員会とともに取り組んだジョイントマーケティングプログラムにより培われた知識とJOCのブランド価値等を活用した、“協賛者とのパートナーシップ”に基づく4年単位の新たなマーケティングプログラムを開発しました。

JOCでは、このプログラムを基本に、4年毎に内容を見直し、より強固なパートナーシップが築けるよう内容の充実に取り組んでいます。

2012年のロンドンオリンピックでは、JOCパートナーとともに、「1億2500万人の大応援団プロジェクト」を展開。2016年のリオデジャネイロオリンピックでは、ライセンシーも巻き込んだ応援企画とともに、大会終了後にオリンピアンとパラリンピアンによる合同パレードも実施し、国民の皆さまと喜びを共有しました。そして、2018年の平昌冬季オリンピックでは、従来のJOCパートナーとの応援企画に加え、平昌冬季パラリンピック開幕前にオリンピック日本代表選手団からパラリンピック日本代表選手団へエールを送る企画等も実施いたしました。

2021年に開催された、東京2020オリンピックにおいては、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（組織委員会）とともに、大会開催に必要となる資金や大会運営及び日本代表選手団のサポートに欠かすことができない、専門的なノウハウと商品・サービスを得るため、IOCの管理のもと、開催国のNOCであるJOCと組織委員会が統合したオリンピックマーケティングを展開しました。

また、JOCのマーケティング活動は、パートナーやライセンシーに対して効果的なアクティベーションの機会を提供することにより、JOCとパートナーやライセンシーが一体となってオリンピック・ムーブメント活動の充実や国民の皆さまから共感を得られるTEAM JAPANづくりに取り組み、選手強化とオリンピック・ムーブメントの推進を支える重要な役割を担っています。コロナ禍以降、上記に加えて、スポーツを通じた社会課題解決のために連携した事業も推進しています。



GP / ゴールドパートナー　OP / オフィシャルパートナー

TEAM JAPANシンボルアスリート・ネクストシンボルアスリート

TEAM JAPANシンボルアスリートプログラムは、JOC Vision 2064の活動指針にもある「憧れられるアスリート」の象徴となるようなアスリートを認定するプログラムです。認定されたアスリート達は、「オリンピズムが浸透している社会の実現」に向けて、JOCのオリンピック・ムーブメント推進事業等へ協力するとともに、「スポーツを切り口とした社会課題の解決」に向けた取組みを実施してまいります。

●TEAM JAPANシンボルアスリート

TEAM JAPANを代表する存在であり、高い競技力と人間力を持ち、誰もが憧れる象徴として、JOCが「TEAM JAPANシンボルアスリート」を認定しています。JOCのオリンピック・ムーブメント推進事業及びマーケティング活動に積極的に協力し、スポーツの価値を社会に伝える役割を担っています。

サニブラウン アブデル ハキーム
陸上競技

渡部 暁斗
スキー／ノルディック複合

石川 祐希
バレーボール

橋本 大輝
体操／体操競技

髙木 美帆
スケート／スピードスケート

宇野 昌磨
スケート／フィギュアスケート

金城 梨紗子
レスリング

見延 和靖
フェンシング

阿部 一二三
柔道

阿部 詩
柔道

上野 由岐子
ソフトボール

桃田 賢斗
バドミントン

●TEAM JAPANネクストシンボルアスリート

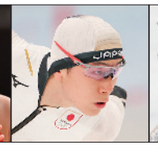
次世代の日本スポーツ界を代表する存在として、JOCが認定する若手アスリートが、「TEAM JAPANネクストシンボルアスリート」です。JOCのオリンピック・ムーブメント推進事業及びマーケティング活動に積極的に協力することを通じて、次期シンボルアスリートとして、TEAM JAPANをけん引する存在となることを目指します。

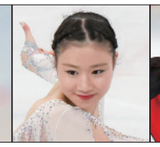
柳田 大輝
陸上競技

本多 灯
水泳／競泳

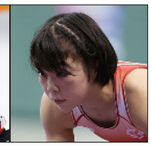
北園 丈琉
体操／体操競技

東藤 なな子
バスケットボール


森重 航
スケート／
スピードスケート


河辺 愛菜
スケート／
フィギュアスケート

伊藤 麻琴
アイスホッケー


藤波 朱理
レスリング

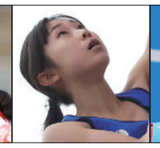
木原 美悠
卓球

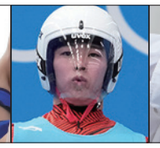
古賀 若菜
柔道

上野 優佳
フェンシング

郡司 莉子
バドミントン

平野 優芽
ラグビーフットボール


谷井 菜月
スポーツクライミング


小林 誠也
リュージュ

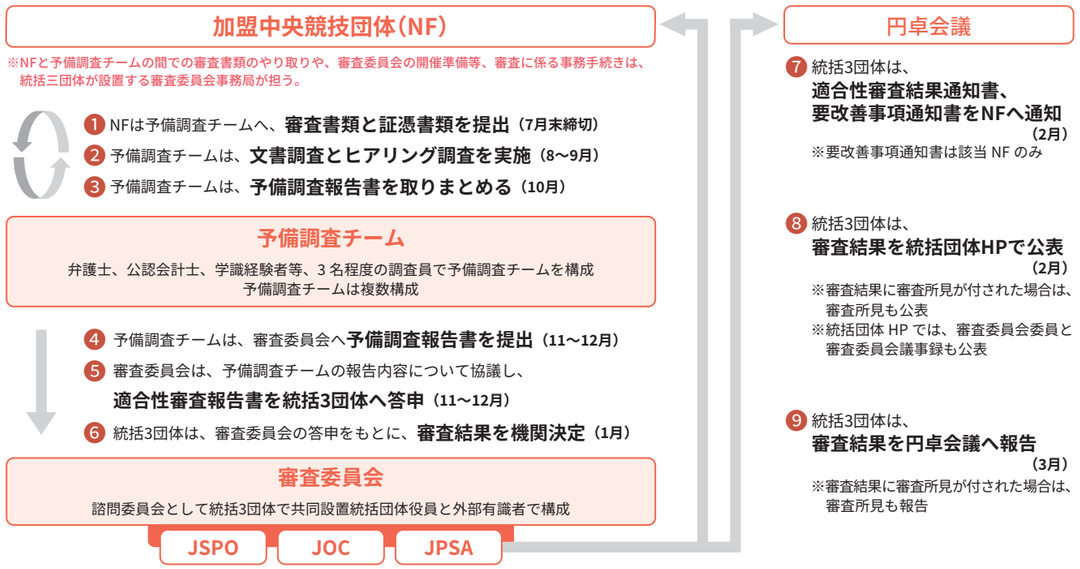
青木 勇貴斗
スケートボード

NF連携・支援

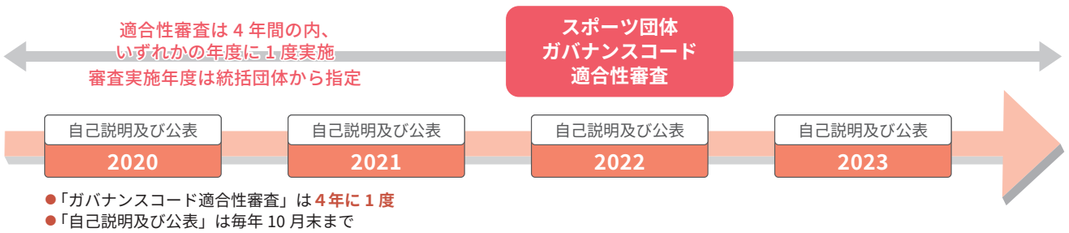
スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査事業

スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞は、スポーツ界で相次いだガバナンス問題による不祥事事案を受け、適切な組織運営を行う上での原則・規範として、2019年6月にスポーツ庁が策定しました。スポーツ庁、日本スポーツ振興センター（JSC）、日本オリンピック委員会（JOC）、日本スポーツ協会（JSPO）、日本パラスポーツ協会（JPSA）の長を構成員とする円卓会議にて、JOC、JSPO及びJPSAの統括三団体が、ガバナンスコードの適合性審査を4年ごとに行うこと、中央競技団体（NF）は、その遵守状況について、年1回、自己説明及び説明を実施すること、を決定しました。NFが自らのガバナンス状況を点検・改善し、広く社会に説明することで、スポーツを「する」「みる」「ささえる」すべての人々が、公正・公平で安全にスポーツを楽しめる環境をつくり、スポーツ団体が主体的に適正なガバナンス運営を行うことを目的に実施しています。

スポーツ団体 ガバナンスコード適合性審査 スキーム図



「適合性審査」と「自己説明及び公表」の関係図



- 「ガバナンスコード適合性審査」は4年に1度
- 「自己説明及び公表」は毎年 10 月末まで

NF 総合支援センター事業

NF総合支援センター設置経緯

加盟団体に対する予防的監査、役員および職員への研修、会計実務に対する助言・指導、並びにこれら付随業務に係る業務支援を通じて、補助金・助成金等の適正利用および会計業務に係る管理体制の整備、並びに選手強化事業の適正化を図ることを目的に2015年4月に設置しました。
また、2022年6月より加盟団体のガバナンスの向上、法的トラブルの予防、統一的解決を目的とした法務サポートを新たに支援メニューに追加しました。NF総合支援センター法務アドバイザーとしてTMI総合法律事務所と契約し、年4回の研修会、週1回相談ブースを設置し加盟団体役職員から延べ80件ほどの相談を受けました。

日時	回数	主な内容
2022年7月13日	第1回	スポーツ団体ガバナンスコードに対応した中央競技団体のガバナンスについて
9月15日	第2回	選手選考にあたって知っておくべき基礎知識とポイント
2023年1月16日	第3回	懲罰にあたって知っておくべき基礎知識とポイント
3月6日	第4回	権利の利活用にあたって知っておくべき基礎知識とポイント

JOC-NF 広報実務者連携セミナー

実務的な広報ノウハウの共有を通じ、NF広報実務担当者のスキルアップを図るとともに、JOC・NF双方が持つインフラを連携させ、スポーツ界全体の発信力強化を目指すことを目的に定期的に実施しています。

期日	主な内容
2022年9月30日	「TEAM JAPAN SNS広報連携について」（仮） ・東京2020大会から現在までのJOC公式SNSの取り組み紹介 ・JOCの公式SNSにおける各競技情報の発信方法　他

女性スポーツ推進事業

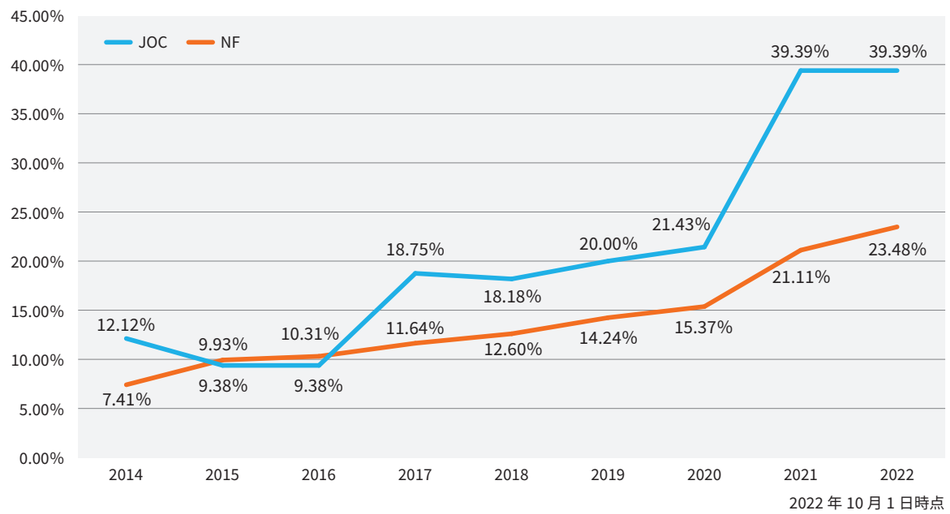
スポーツ団体における女性役員の育成支援

女性の「する」「みる」「ささえる」スポーツへの参加を促進するための環境を整備することにより、スポーツを通じた女性の社会参画・活躍を促進するため、スポーツ団体における女性役員の育成支援を行っております。国内競技団体（NF）の女性役員および女性役員候補者を対象に、NFの役員となるために必要な専門知識の研修プログラムを開発し、モデル研修等を実施しております。

●JOC Sports Woman Career Up

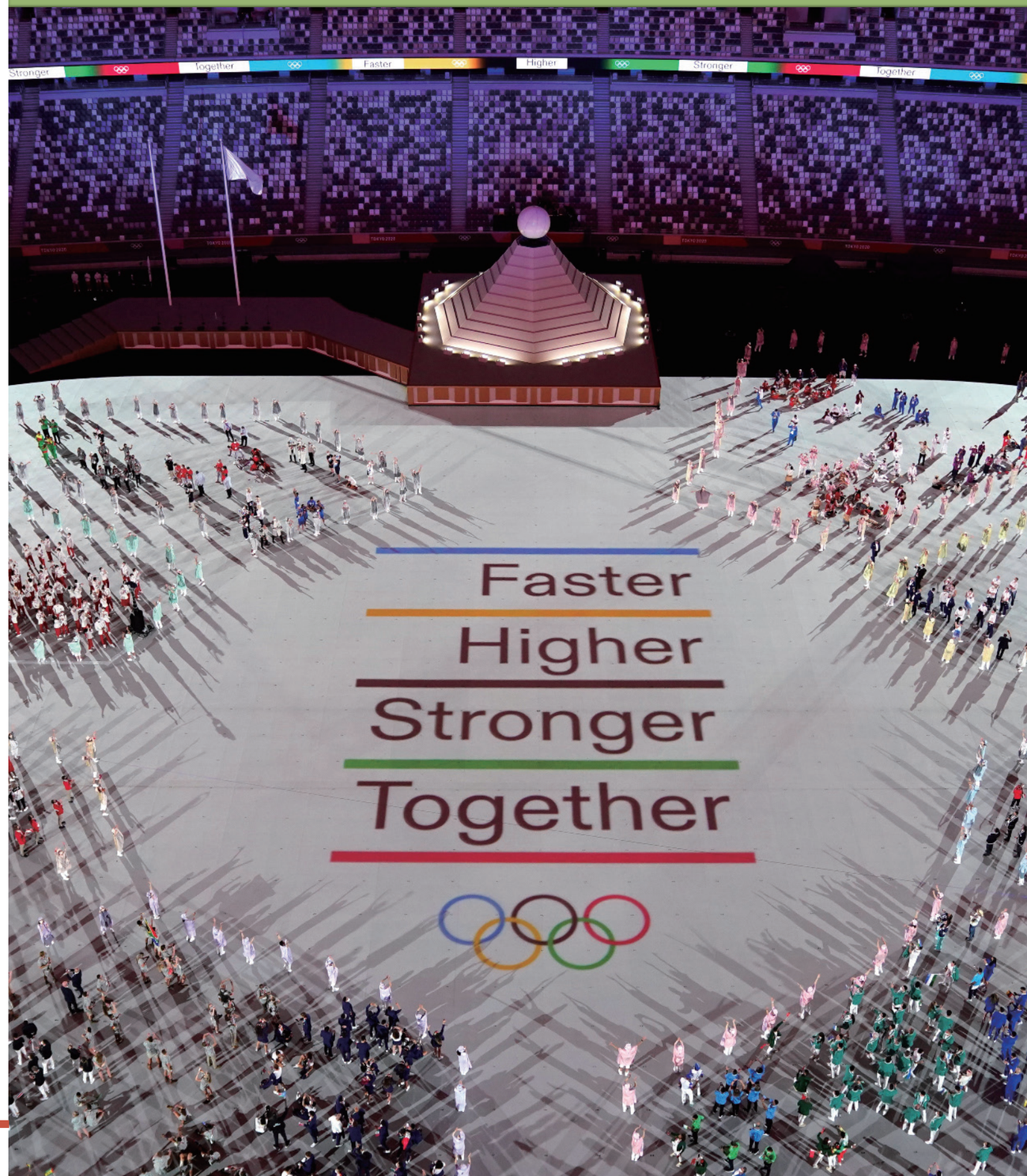
2020年4月、スポーツ庁委託事業「スポーツ団体における女性役員の育成事業」により作成したeラーニングサイト「JOC Sports Woman Career Up」を公開しました。スポーツ団体ガバナンスコードでは「外部理事の目標割合（25%以上）および女性理事の目標割合（40%以上）を設定する」と掲げられており、本ウェブサイトは、スポーツを通じた女性の社会参画・活躍を促進し、スポーツ団体における女性役員の育成支援を行う取り組みの一環の中で開発されました。本ウェブサイトでは、8名の女性役員のインタビューに加え、約50名のスポーツ団体女性役員リストも公開し、中央競技団体、地方競技団体の外部役員、女性役員登用へ繋がる情報発信を行っています。

JOCおよびJOC加盟団体（NF）役員女性割合%推移



2022年10月1日時点

関係団体との取組み・JOC組織体制



愛知・名古屋 2026 アジア大会開催

JOCでは、2026年9月に開催される第20回アジア競技大会に向けた大会組織委員会（AINAGOC）の計画・準備に対する助言や連携支援を行っています。また、開催地である愛知県・名古屋市とともに、県民・市民へ向けた大会機運醸成の一環として、小学生以下の子供達を対象とした絵画コンテストを実施しました。

20th Asian Games
Aichi-Nagoya 2026

プライドハウス東京との協定

2022年6月13日、プライドハウス東京（事務局：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ代表）と包括協定を締結しました。JOCは、東京2020大会を契機とし、誰もが自分らしく生きられる共生社会の実現にむけた「東京2020 D&I アクション」として、2021年8月に、人種、肌の色、性別、性的指向及び性自認、障がいの有無、宗教、国籍、年齢など、それぞれの個性を尊重しながらお互いに認め合い、各自がそれぞれ個性を生かし、自分らしく活躍できる組織を目指すことを宣言しました。そして、東京2020大会のレガシーとなる「東京2020 D&I アクション」で示した目標に対する具体的なアクションとして、本協定を締結しました。まずスポーツ界がLGBTQ+について理解を深めていくことが重要という認識のもと、JOC役職員向けの研修会や、加盟団体への情報提供を行っています。

札幌招致活動

JOCでは札幌市とともに、IOCとの「継続的な対話」ステージを通じて協議を重ねてきました。2022年５月には札幌市とともに「北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会」を設立し、大会開催の意義やメリットについて議論し、国民の皆様からの更なる支持を得ることを目指して、招致HP等での情報発信や国内競技大会やスポーツイベント等での機運醸成活動を行ってきました。しかし、東京2020大会をめぐる事案によって招致活動への逆風が吹く中、より多くの市民、道民、国民の理解を得ていくためにはオリンピック・パラリンピックに対する信頼回復が不可欠であることから、2022年9月にはクリーンな札幌大会の実現にむけた札幌市との共同宣言を発表。2022年12月以降は積極的な機運醸成活動を休止し、競技運営体制の見直しやガバナンス体制の検討に注力しました。2023年3月には、スポーツ庁を中心としたプロジェクトチームとしてガバナンス体制等に関する指針を策定しました。

※2023年10月11日に行われた札幌市・JOCによる共同記者会見において、2034年以降の冬季大会開催の可能性を探ることを公表。

招致HP トップイメージ

クリーンな札幌大会の実現に向けた共同宣言

アスリートへの写真・動画による性的ハラスメント防止の取り組みについて

アスリートの盗撮については、室内・屋外競技等の競技特性や、大会の規模などによって状況が異なるため、これまで競技毎に対応してきました。しかしながら、単一競技団体だけでの対応には限界があり、SNS等のツールの発達に伴い、競技大会等での盗撮に留まらず、通常の競技写真に卑猥な言葉を加えて投稿・拡散する等、性的目的の写真・動画の悪用が多様化している状況にあります。こうしたことを背景に、改めてアスリートが安心して競技に取り組める環境を守る姿勢を明確にすることが、東京2020大会以降も多くの方にスポーツに親しみ、楽しんでいただくうえで不可欠と考えて、アスリートを支える立場であるスポーツ関連団体が協力し、スポーツ界全体でこの問題に取り組んでおります。

コンプライアンス

独立後30年を経たJOCを取り巻く環境は、平成23年スポーツ基本法の制定、スポーツ基本計画の策定、国の経済状況の逼迫等により、大きく変化を遂げています。スポーツ基本法は、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利」と謳い、スポーツを行う者に対し不当に差別的取り扱いをせず、スポーツに関する活動が公正、適切に行われることを求めています。そして、スポーツ団体の運営の適正の確保を努力義務として規定しています。また、社会からは組織のコンプライアンス、ガバナンスの強化が求められ、IOCにおいてもスポーツの高潔性、透明性に基づくアジェンダ2020の提言があげられております。JOCは、IOCの方向性を十分に認識し、事業活動の透明性の確保、基準の策定に取り組まなくてはならないと考えています。

JOC加盟団体会長会議／専務理事等会議

NFの健全かつ適正な組織運営の確保のため、スポーツ界のガバナンス（企業統治）の確立とコンプライアンス（法令遵守）違反の徹底防止を目的に、NFの会長や専務理事等とともに、スポーツ・インテグリティについて考える機会として実施しています。フリーディカッションの時間を設け、NFの課題、JOCへの要望等を中心に意見交換を行いました。

★JOC加盟団体会長会議

日時　：2022年11月16日（水）16:00~17:40
会議形式：JSOS14階　岸清一メモリアルルーム　Web併用
参加者　：計58/67NF（オンサイト30名、Web28名）
内容　：①ガバナンスの確保にむけて
②フリーディスカッション
③その他（協力依頼）

★JOC加盟団体専務理事等会議

日時　：2022年12月16日（金）15:00~16:30
会議形式：JSOS14階　岸清一メモリアルルーム　Web併用
参加者　：計59/67NF（オンサイト25名、Web34名）
内容　：①組織運営上の課題にむけて
②フリーディスカッション　③その他

コンプライアンスとガバナンス

JOCは加盟する中央競技団体の統括組織であり、中央競技団体が構成主体の組織であることから、加盟団体の不祥事が、JOCの不祥事として捉えられることもあります。競技団体が主体のJOCはアスリートにとっても近い存在であり、JOCが不祥事の根絶を目指して加盟団体と自らにコンプライアンス、ガバナンスを強化することは、社会の要請であるとともにアスリートの希望でもあると捉えています。

選手、指導者らを対象とした通報相談窓口

JOCはスポーツ界における一連の暴力問題を受けて、「スポーツにおける暴力の根絶」に向けた通報相談処理規程を制定し、いち早く通報相談窓口を開設しました。オリンピック憲章では、IOCが「スポーツにおける倫理の振興、優れた統治およびスポーツを通じた青少年の教育を奨励、支援し、スポーツにおいてフェアプレーの精神が隅々まで広まり、暴力が閉め出されるべく努力すること」を自らの役割とし、各国・地域オリンピック委員会に「スポーツにおけるいかなる形の差別や暴力にも反対する行動をとること」を求めています。JOCはスポーツ活動から暴力を一掃するという基本認識に立ち戻り、オリンピック・ムーブメント活動のひとつの大きな柱として「スポーツにおける暴力の根絶」に向け、各競技団体と共に最大限の努力をもって継続的に実施することで、アスリートの尊厳、そして日本のスポーツの尊厳を守りたいと考えています。その方策のひとつとして、通報相談処理規程を制定し、通報相談窓口を開設したものです。大きなポイントは以下の7点です。

1. 通報相談窓口を弁護士事務所に設ける。
2. 利用者の秘密を保持し不利益とならないよう十分に配慮する。
3. 事実であるとの根拠が示される場合は匿名による通報も受け付ける。
4. 利用対象はJOCが認定するオリンピック強化指定選手、委嘱する強化スタッフ、JOCとJOC加盟団体の役職員および、これらのいずれかに該当した者で、その地位・身分でなくなってから2年を経過しない者。
5. 対象とする通報などの内容は、JOCやJOC加盟団体に関する法令違反、暴言、脅迫等暴力行為、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントなどとし、申出時から2年以内の案件とする。
6. 事実調査により不当行為が明らかになった場合は、必要な議決を経て是正措置、再発防止策を講じる。
7. 通報内容に事実があり必要な措置を執ったのちは、秘密保持に配慮し、通報内容、調査結果、是正措置の内容等を公表する。

通報相談窓口は以下のとおりです。

宏和法律事務所　飯田 隆（いいだ たかし）弁護士

連絡先
住所 〒100-0005　東京都千代田区丸の内3-4-2　新日石ビルヂング9F
TEL 03-3214-5419（電話対応時間：平日10時～18時 ※時間外は留守番電話での対応。）
FAX 03-3214-5421　MAIL iida.joc-madoguchi@kowa-law.com

※飯田弁護士不在の際は、左記事務所の他の弁護士が対応する場合がございます。

JOC役員

2023年6月29日現在

令和5年・6年度 公益団法人日本オリンピック委員会役員一覧

役職名	氏名
会　長	山下　泰裕
副会長	三屋　裕子
〃	酒井　邦彦
〃	横井　裕
専務理事	尾縣　貢
常務理事	北野　貴裕
〃	小谷　実可子
〃	星　香里
理　事	荒木　絵里香
〃	伊東　秀仁
〃	岩渕　健輔
〃	遠藤　利明
〃	太田　雄貴
〃	岡本　友章
〃	栗原　美津枝
〃	杉山　文野
〃	鈴木　大地
〃	須藤　実和
〃	田口　亜希
〃	谷本　歩実
〃	土肥　美智子
〃	原田　雅彦
〃	服部　道子
〃	古谷　利彦
〃	松田　丈志
〃	水鳥　寿思
〃	村井　満
〃	八木　由里
〃	來田　享子
〃	渡辺　守成
監　事	工藤　陽子
〃	寺田　昌弘
〃	塗師　純子

以上 理事30名、監事3名 計33名

JOC歴代会長（委員長）

1	嘉納 治五郎（1911年～1921年）
2	岸　清一（1921年～1933年）
3	大島 又彦（1936年～1937年）
4	下村　宏（1937年～1945年）
5	平沼 亮三（1945年～1946年）
6	東 龍太郎（1947年～1958年）
7	津島 壽一（1959年～1962年）
8	竹田 恒徳（1962年～1969年）
9	青木 半治（1969年～1973年）
10	田畑 政治（1973年～1977年）
11	柴田 勝治（1977年～1989年）
12	堤　義明（1989年～1990年）
13	古橋 廣之進（1990年～1999年）
14	八木 祐四郎（1999年～2001年）
15	竹田 恒和（2001年～2019年）
16	山下 泰裕（2019年～ 現在）

※柴田勝治までは委員長

日本歴代IOC委員

1	嘉納 治五郎（1909年～1938年）
2	岸　清一（1924年～1933年）
3	杉村 陽太郎（1933年～1936年）
4	副島 道正（1934年～1948年）
5	徳川 家達（1936年～1939年）
6	永井 松三（1939年～1950年）
7	高石 真五郎（1939年～1967年）
8	東 龍太郎（1950年～1968年）
9	竹田 恒徳（1967年～1981年）
10	清川 正二（1969年～1989年）
11	猪谷 千春（1982年～2011年）
12	岡野 俊一郎（1990年～2011年）
13	竹田 恒和（2012年～2019年）
14	渡辺 守成（2018年～ 現在）
15	山下 泰裕（2020年～ 現在）
16	太田 雄貴（2021年～ 現在）

組織機構図

2023年7月現在

評議員会 ― 理事会 ― 常務理事会

代表理事			
会長	山下 泰裕	常勤	
業務執行理事（副会長、専務理事、常務理事）及び分担			
副会長	三屋 裕子		会長の業務の補佐 プロトコールに関する事項 （組織体制・組織運営に関する事項）
副会長	酒井 邦彦		会長の業務の補佐 法務、コンプアライアンスに関する事項 （危機管理に関する事項）
副会長	横井 裕		会長の業務の補佐 国際連携・交流の推進、国際人材の育成に関する事項 国際総合競技大会の招致・開催に関する事項
専務理事	尾縣 貢	常勤	組織体制・組織運営、危機管理に関する事項 加盟団体との連携・支援に関する事項 事務局に関する事項 中期計画に関する事項 広報に関する事項 選手強化、 ナショナルトレーニングセンターに関する事項 国際総合競技大会選手団（TEAM JAPAN）に関する事項
常務理事	北野 貴裕		財務・資産管理に関する事項 マーケティングに関する事項 日本オリンピックミュージアムの管理に関する事項
常務理事	小谷 実可子		オリンピックの価値発信、 オリンピック・ムーブメント推進に関すること 日本オリンピックミュージアムの事業に関する事項
常務理事	星 香里	常勤	専務理事の業務の補佐 加盟団体との連携、ガバナンス支援に関する事項 行政関係との連携、調整に関する事項 危機管理に関する事項

事務局

- ☆ 総務部
- ◎ オリンピック・ムーブメント推進部
- □ 広報部
- △ 総合企画部
- ▼ 国際部
- ※ 強化部

●財務・広報・マーケティングは、業務執行理事が担当し、必要に応じてタスクフォースを設置し対応

定款第33条～第36条

選手強化本部

本部長　：尾縣 貢
副本部長：伊東 秀仁
　　岩渕 健輔
　　土肥 美智子
　　古谷 利彦

選手強化事業専門部会 ※

競技者・指導者の育成・支援、NF連携等
部会長　：伊東 秀仁
副部会長：岩渕 健輔、土肥 美智子、原田 雅彦、水鳥 寿思

情報・医・科学専門部会 ※

情報収集・分析、医・科学支援、競技間連携等
部会長：土肥 美智子　　副部会長：杉田 正明

ナショナルトレーニングセンター専門部会 ※

NTC活用、アカデミー事業、競技別強化拠点等
部会長　：岩渕 健輔
副部会長：水鳥 寿思、田口 亜希、服部 道子

アンチ・ドーピング専門部会 ※

アンチ・ドーピング教育、ドーピング検査関係等
部会長：古谷 利彦　　副部会長：谷本 歩実

定款第37条～第40条

オリンピック・ムーブメント事業本部

本部長　：小谷 実可子
副本部長：栗原 美津枝
　　太田 雄貴
　　谷本 歩実

オリンピック・ムーブメント事業専門部会 ◎

OM推進事業、ミュージアム、スポーツ環境等
部会長　：栗原 美津枝
副部会長：原田 雅彦、來田 享子

アントラージュ専門部会 ☆

アントラージュ、女性スポーツ、表彰等
部会長　：谷本 歩実
副部会長：杉山 文野、古谷 利彦

定款第41条～第44条

日本ユニバーシアード委員会 ▼

国際大学スポーツ連盟関連、ユニバーシアード大会関係等
委員長：鈴木 大地　　副委員長：五十嵐 久人

定款第45条～第48条

専門委員会

倫理委員会 ☆

役職員の倫理に関する事項・通報相談に関する事項等
委員長　：酒井 邦彦
副委員長：八木 由里、岡本 友章

加盟団体審査委員会 ☆※

加盟審査、加盟団体ガバナンス・コンプライアンス確認等
委員長　：星 香里
副委員長：岩渕 健輔、須藤 実和

アスリート委員会 ◎

アスリートの権利保護、アスリートからの意見聴取等
委員長　：松田 丈志
副委員長：荒木 絵里香、羽根田 卓也

国際委員会 ▼

国際連携・協力、国際人養成、JICA連携等
委員長　：横井 裕
副委員長：鈴木 大地、太田 雄貴

利益相反マネジメント委員会 ☆

利益相反の適切なマネジメント等
委員長：酒井 邦彦　　副委員長：須藤 実和

事務局組織図

2023年7月現在

事務局
- 総務部
  - 総務
  - NF総合支援センター
- 総合企画部
  - 企画・財務
  - マーケティング
  - 経理
- オリンピック・ムーブメント推進部
  - OM推進
  - オリンピックミュージアム室
- 広報部
- 国際部
- 強化部
  - 選手強化
  - 編成派遣
  - ナショナルトレーニングセンター管理

加盟団体

2023年7月現在

正加盟団体

No.	団体
1	（公財）日本陸上競技連盟
2	（公財）日本水泳連盟
3	（公財）日本サッカー協会
4	（公財）全日本スキー連盟
5	（公財）日本テニス協会
6	（公社）日本ローイング協会
7	（公社）日本ホッケー協会
8	（公社）日本ボクシング連盟
9	（公財）日本バレーボール協会
10	（公財）日本体操協会
11	（公財）日本バスケットボール協会
12	（公財）日本スケート連盟
13	（公財）日本アイスホッケー連盟
14	（公財）日本レスリング協会
15	（公財）日本セーリング連盟
16	（公社）日本ウエイトリフティング協会
17	（公財）日本ハンドボール協会
18	（公財）日本自転車競技連盟
19	（公財）日本ソフトテニス連盟
20	（公財）日本卓球協会
21	（公財）全日本軟式野球連盟
22	（公財）日本相撲連盟
23	（公社）日本馬術連盟
24	（公社）日本フェンシング協会
25	（公財）全日本柔道連盟
26	（公財）日本ソフトボール協会
27	（公財）日本バドミントン協会
28	（公財）全日本弓道連盟
29	（公社）日本ライフル射撃協会
30	（公財）全日本剣道連盟
31	（公社）日本近代五種協会
32	（公財）日本ラグビーフットボール協会
33	（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会
34	（公社）日本カヌー連盟
35	（公社）全日本アーチェリー連盟
36	（公財）全日本空手道連盟
37	（公社）全日本銃剣道連盟
38	（公社）日本クレー射撃協会
39	（公財）全日本なぎなた連盟
40	（公財）全日本ボウリング協会
41	（公社）日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
42	（一財）全日本野球協会
43	（特非）日本スポーツ芸術協会
44	（公社）日本武術太極拳連盟
45	（公社）日本カーリング協会
46	（公社）日本トライアスロン連合
47	（公財）日本ゴルフ協会
48	（公社）日本スカッシュ協会
49	（公社）日本ビリヤード協会
50	（公社）日本ボディビル・フィットネス連盟
51	（一社）全日本テコンドー協会
52	（公社）日本ダンススポーツ連盟
53	（一社）日本バイアスロン連盟
54	（一社）日本サーフィン連盟
55	（一社）ワールドスケートジャパン

準加盟団体

No.	団体
56	（一社）日本カバディ協会
57	（一社）日本セパタクロー協会
58	（公社）日本アメリカンフットボール協会
59	（公社）日本チアリーディング協会
60	（一社）日本クリケット協会

承認団体

No.	団体
61	（公社）日本オリエンテーリング協会
62	（公社）日本パワーリフティング協会
63	（公社）日本ペタンク・ブール連盟
64	（一社）日本フライングディスク協会
65	（公社）日本コントラクトブリッジ連盟
66	（一財）日本航空協会
67	（特非）日本水上スキー・ウエイクボード連盟

令和4年度 決算概要

単位:円

経常増減の部

経常収益	
基本財産運用益	7,142,749
特定資産運用益	10,000
受取会費等	6,150,000
事業収益	5,670,356,626
受取補助金等	8,174,917,739
受取負担金	1,337,503,459
受取寄付金	144,173,412
雑収益他	9,550,386
経常収益計	15,349,804,371

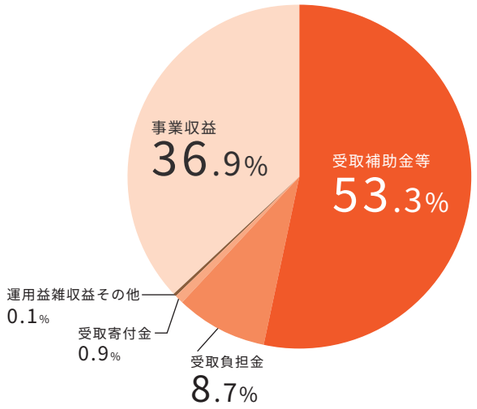
経常費用	
選手強化	10,322,360,290
オリンピック・ムーブメント、表彰等	1,249,064,849
国際総合競技大会選手団派遣	557,095,639
マーケティング	1,098,026,923
その他事業	112,014,103
管理費他	120,425,377
経常費用計	13,458,987,181

評価損益等調整前当期経常増減額	1,890,817,190
評価損益等	△ 39,831,345
当期経常外増減額	△ 13,505,610
法人税、住民税及び事業税	180,667,800
当期一般正味財産増減額	1,656,812,435
一般正味財産期首残高	8,829,788,384
一般正味財産期末残高	10,486,600,819

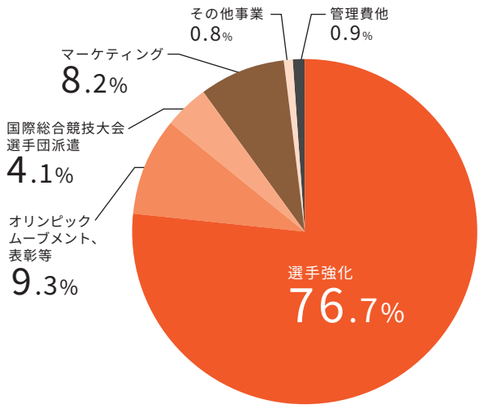
指定正味財産増減の部

指定正味財産期末残高	205,000,000
正味財産期末残高	10,691,600,819

経常収益割合

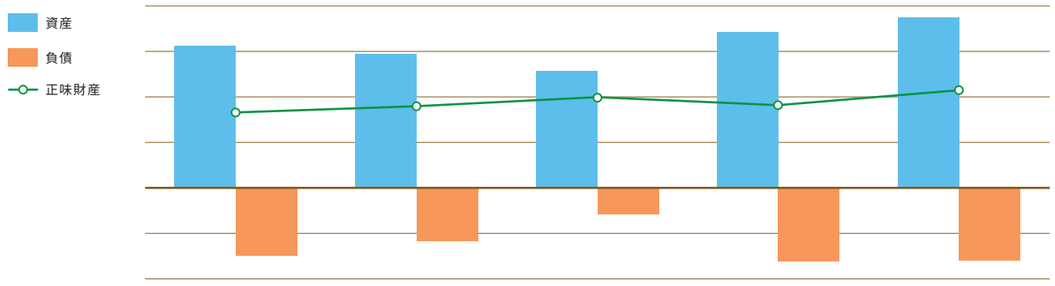


経常費用割合



公益事業比率 90.11%

直近5年度における資産、負債及び正味財産の推移



	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
資産合計	15,637,727,292	14,751,592,523	12,821,822,395	17,089,526,911	18,690,974,812
負債合計	7,410,323,490	5,833,833,376	2,901,720,509	8,054,738,527	7,999,373,993
正味財産合計	8,227,403,802	8,917,759,147	9,920,101,886	9,034,788,384	10,691,600,819